

第21回 森のようちえん全国交流フォーラム in 長野

<要綱・別冊>

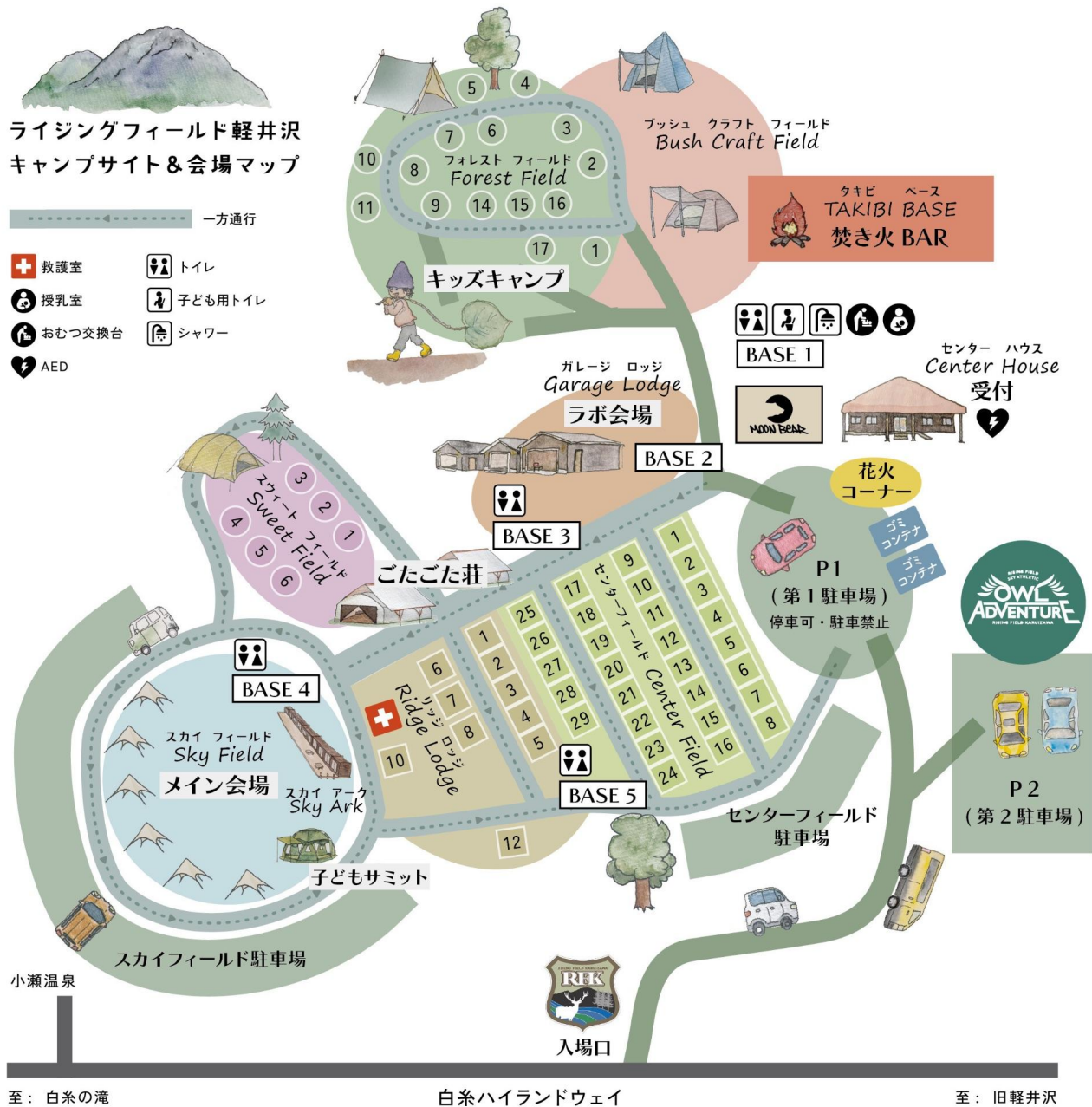


目次

1. 会場MAP
2. タイムスケジュール(イラスト版)
3. 基調講演・特別講演
4. 特別プログラム詳細
 - 4-1. 詳細:特別プログラム6(馬プログラム)
 - 4-2. 詳細:特別プログラム7(焚き火BAR(場))
5. ラボ詳細一覧
6. 早朝プログラム(フリー分科会)
7. アウルアドベンチャー(スカイアスレチック)
8. 物販・出店

1. 会場MAP

- 当日までの間に変更になる場合がございます。当日フォーラム会場でMAPの最終版をお配りしますので、参考までにご覧ください。



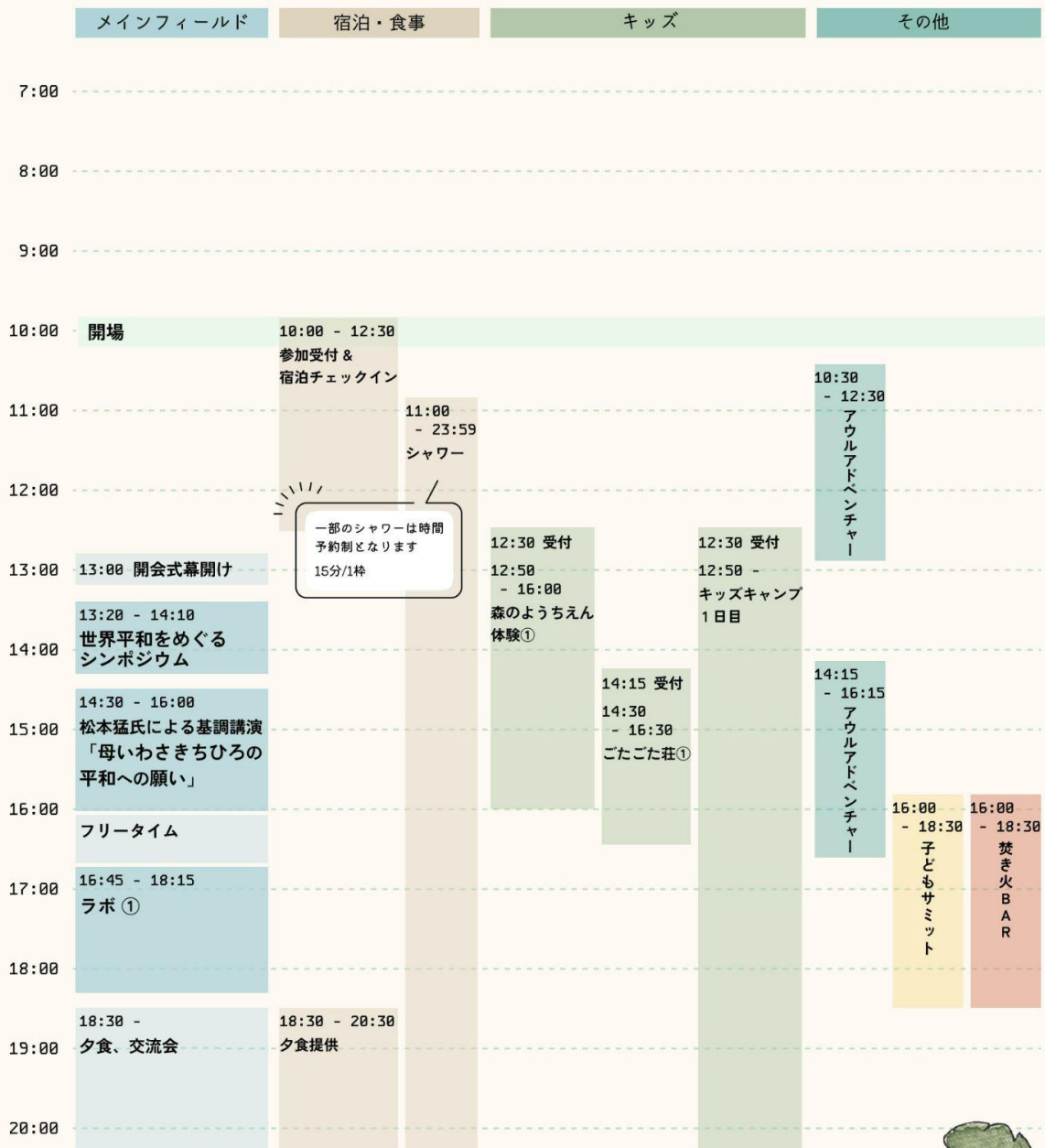
2. タイムスケジュール(イラスト版)

第21回 森のようちえん全国交流フォーラム in 長野 「世界平和大作戦！！」



10/10(土) 目覚め

Time Table



ライジングフィールド発 → 軽井沢駅行き マイクロバス
【集合】 20:50 センターハウス前 【バス出発時刻】 21:00
(！要事前申込！)



第21回 森のようちえん全国交流フォーラム in 長野 「世界平和大作戦！！」



10/11(日) 吸収

Time Table



	メインフィールド	宿泊・食事	キッズ	その他
7:00	6:00 - 8:30 早朝プログラム	7:00 - 8:30 朝食提供	00:00 - 9:30 シャワー	焚き火BAR
8:00		8:00 - 9:30 参加受付 & 宿泊 チェックイン	8:30 受付 8:50 - 12:00 森のようちえん 体験②	
9:00			キッズキャンプ2日目	9:00 - 18:30 子ども平和サミット
10:00	9:30 - 11:30 ラボ②		9:15 受付 9:30 - 11:30 ごたごた荘②	9:15 - 11:30 アウルアドベンチャー
11:00		11:00 - 14:00 昼食提供	11:00 - 23:59 シャワー	12:00 - 14:00 アウルアドベンチャー
12:00	11:30 - 13:30 参加者や講師と語らう ランチタイム	- 12:00 前日宿泊 チェックアウト		
13:00		13:00 - 当日宿泊荷入れ	12:30 受付 12:50 - 16:00 森のようちえん 体験③	
14:00	14:00 - 16:00 ラボ③		13:45 受付 14:00 - 16:00 ごたごた荘③	
15:00				
16:00	フリータイム			
17:00		空きスペースに案内 や補足などのメモを 入れることもできま す	空きスペースに案内 や補足などのメモを 入れることもできま す	空きスペースに案内 や補足などのメモを 入れることもできま す
18:00				
19:00	18:30 大交流会			
20:00				

ここに注意書き等を入れることもできます。
150文字くらい入ります。



第21回 森のようちえん全国交流フォーラム in 長野 「世界平和大作戦！！」



10/12 (月) 芽吹き



Time Table

	メインフィールド	宿泊・食事	キッズ	その他
7:00	6:00 - 8:30 早朝プログラム	7:00 - 8:30 朝食提供	8:00:00 - 9:30 シャワー	焚き火BAR
8:00		8:00 - 9:30 参加受付	8:30 受付 8:50 - 12:00 森のようちえん体験②	8:00 - 10:30 子ども平和サミット
9:00	9:00 - 10:30 ラボ④			
10:00		- 9:00 宿泊者 チェックアウト	シャワー 清掃 使用不可	
11:00	10:30 - 11:30 子どもサミット報告会		10:15 受付 10:30 - 12:30 ごたごた荘④	
12:00	11:30 - 12:30 溝口義朗氏による 特別講演		- 12:00	
13:00	13:00 閉会式			- 13:00
14:00				13:30 - 15:30 アウルアドベンチャー
15:00		15:00 サイト貸切 チェックアウト		
16:00	15:30 完全撤収			
17:00	空きスペースに案内 や補足などのメモを 入れることもできま す	空きスペースに案内 や補足などのメモを 入れることもできま す	空きスペースに案内 や補足などのメモを 入れることもできま す	空きスペースに案内 や補足などのメモを 入れることもできま す
18:00				
19:00				
20:00				

ここに注意書き等を入れることもできます。
150文字くらい入ります。



3. 基調講演・特別講演

フォーラムは大小様々な分科会、参加者や講師との交流だけでなく、メインイベントとして初日と最終日に、大きな講演会をご用意しています。今回は、平和をテーマに、いわさきちひろさんのご子息様である松本猛氏、溝口義朗氏に登壇いただきます。またとないこの機会に、ぜひご参加下さい。

1日目 基調講演 松本 猛 氏『母 いわさきちひろの平和への願い』



【プロフィール】松本 猛(まつもと・たけし)

水彩画家で絵本作家のいわさきちひろを母とし、家族だからこそその距離で彼女の子ども観や平和観を身近に感じ、自身にも多大な影響があったであろう猛氏からの平和へのメッセージを森のようすんフォーラムの基調講演としたいと考えます。

今なおちひろの作品の数々から子どもたちの声を聴き、母親のまなざしの尊さを感じ、戦争の底知れぬ不安感に打ちのめされそうになる私たちは「ちひろの想い」を猛氏から伺い明日へのヒントとなることを願っています。

3日目 子どもサミット報告会・特別講演

■子どもサミット報告会

フォーラム開催の何か月も前から、子どもたちが対話をしながら「戦争のない明日をつくるにはどうしたらよいのだろうか」と知恵を絞り、フォーラム期間中も、自分たちの想いをどう伝えるのか、試行錯誤しながら考えていきます。

3日目に、子どもサミット報告会と題して、子どもたちから何かしらメッセージが届くのではないかと考えています。彼らからどんなことが発信されるのか、大人の私たちはしっかりと受け止めたいと考えます。

■特別講演 溝口 義朗 氏「子どもサミットの報告を受けて、子どもと向き合う私たちの世界平和とは」

【プロフィール】溝口 義朗(みぞぐち・よしあき) 氏

東京都認証保育所「ウッディキッズ」園長、公益社団法人「日本こども育成協議会」会長

3日間の子どもサミットの活動を振り返りながら、溝口氏の言葉を手がかりに、あらためて私たちの世界平和とは何かを考えてみたいと思います。決して答えはひとつではありません。どんな

状況においても、希望を持ち続けることを心に、この特別講演をもって本フォーラムの締めくくりといたします。

▼子どもサミットチラシ

**第21回 森のようちえん
全国交流フォーラム in 長野**



戦争のない未来のつくり方を考える 子どもサミット参加者募集

しょうがく ねんせい さいていど
小学4年生から25歳程度のみなさん

みなさんの目からみて今の世界はどんなふうになっているでしょうか。

大人たちは相変わらず解決の難しい課題を、誰かを傷つけることによって克服しようとまた大きな声を上げています。

そんな今だからこそ、あなたの「やわらかな思考」「とらわれない考え」、大人には難しい自由な発想で、

あつ なかま いっしょ せかい へいわ かんが
集まった仲間と一緒に「世界平和」を考えてみませんか。

この会では、仲間と対話して考えたことをアートや様々なやり方で誰かに伝えていく、という体験を行います。

あなたのしなやかな発想と行動力でこの世界にやさしい風を巻き起こしてください。

6月から11回のオンラインもしくは対面開催、そして10月10日(土)～12日(月)の3日間は

だい かい もり ぜんこく こうりゅう ながの さんか ひょうげんかつどう とお おも つた
「第21回森のようちえん全国交流フォーラム in 長野」に参加をし、表現活動を通して想いを伝えます。

なかま なか じしん おこな ひょうげんかつどう
仲間とのつながりの中でみなさん自身が行ってみたい表現活動——たとえば紡いだ言葉を直接的になら、

てがみ しんぶん し ことば かいがい りたい きくひん おんがく そうごうてき
手紙や新聞、詩なども。言葉にならない気持ちを伝えるには絵画や立体作品、音楽やダンスなど。総合的になら、

えんげき じんぎょうげき かいしげい こ おこな
演劇や人形劇、紙芝居など。もちろんジャンルを超えて行ってみるのもおもしろそう。

あなたの得意なことでも、はじめてのことでも、「やってみたい」と「仲間」がいればきっと面白い体験になるはず。

みなさんの参加をお待ちしております。

全5回 2026年6月14日～10月12日

主催：「第21回 森のようちえん全国交流フォーラム in 長野」実行委員会
共催：NPO 法人森のようちえん全国ネットワーク連盟

STIR UP A GENTLE BREEZE OF WORLD PEACE

この世界にやさしい風を

くわしくは裏面へ

4. 特別プログラム

平和をテーマに、全7種類の「特別プログラム」をご用意いたしました。
一部、事前申込制・有料のものがございますので詳細をご確認ください。

●特別プログラム1:大交流会 コンサート

タイトル・日時・内容	会場
【うたをあそぼう、あそびうたコンサート】 ●出演: 福田 翔 さん(あそびうた作家) ●日時: 10月11日(日)18:00から ●概要: 2日目の大交流会の中でコンサートを行います。 あそびうたを一緒に歌い、遊び、楽しみながらコミュニケーションを深めていきましょう。 ●講師からのメッセージ: オリジナルのあそびうたを一緒に歌い、遊び、楽しみながらコミュニケーションを深めていくコンサートです。私自身「あそびうたを心の架け橋に!」ということを大切にしています。 子どもに関わる皆さんと一緒にあそびうたを楽しみ、自分自身が表現する体験から、子どもたちの姿、表出、表現を大切に作る気づきを共有する時間になればと思っています。皆さんとその日しか味わえない楽しい時間になれば嬉しいです。 ●プロフィール: あそびうた作家。 都内の保育園に8年間勤務した後、2014年より活動開始。2018年「おかあさんといっしょ」(NHKEテレ)2月の月の歌「おはよう!」の作詞作曲を手掛ける。 2020年『おいで おいで』(赤ちゃんとママ社)で絵本作家デビュー。 自身初のオリジナルフルアルバム『ともだちの花』(日本コロムビア)発売。 2025年NHKステージショー『100年どもくんがいく!』うたのおにいさんとして出演。2025年度から関東学院大学非常勤講師として「子どもと音」の授業を担当。	スカイフィールド

●特別プログラム2:絵本展

タイトル・日時・内容	会場
【子どもたちと分かち合う戦争と平和～絵本の力～】 ●企画: ラボチーム ●日時: 全日 ●概要: 基調講演でお話いただく松本猛さんご紹介の絵本と、実行委員がセレクトした絵本を展示いたします。 じっくりと味わう方も、誰かと感想を分かち合う方も、ただ絵本に囲まれてほっとする方も——それぞれの形で、心動かされる絵本を自由に手に取り、この空間で過ごしていただければと思います。	スカイフィールド (芝エリア⑤)

一冊一冊に込められた平和への願いが、読む方への心に響き、その先にある子どもたちの平和な未来へとつながることを願って。夜間を除き常時開設しておりますので、どうぞふらっと足をお運びください。 ●ラボチームからのメッセージ： 絵本を読む、読んでもらう——絵本によって、心が強く動かされる体験をされた方は多くいらっしゃるのではないのでしょうか。 絵本は、子どもたちに豊かなイメージの世界をもたらし、見えないものを信じる力や、時に、人生における大事なメッセージを心に届けてくれます。 子どもたちには「知る」前に、まず豊かに「感じる」体験をしてほしい。 この絵本展が世界平和を考えるきっかけになったらと願っています。 『ぼくたちはあらそうために生きるのか?』の著者、山極 寿一さんは、こう仰います。 「あいての気持ちをわかろうとする共感の力が、ぼくたちヒトの本能であるかぎり、いつかきっと、紛争のない世界をつくることができるはずだ」と。 この三日間、「互いの気持ちをわかろうとすること、わかりあうこと」を、絵本を通して、ともに考えてみませんか。 子どもたちが育っていく未来の姿を大人はしっかりと思い描き、子どもたちが希望を持って、生きる力を育んでいけるよう、ともに考えたいと思います。	
--	--

●特別プログラム3:写真展

タイトル・日時・内容	会場
【ともに生きる—アフリカの野生から、平和を見つめる—】 ●写真家:安岡 明紗美 さん ●日時:全日 ●概要: これまでアフリカで撮影してきた野生動物や風景を中心とした写真を展示・販売します。 アフリカの広大な大地には、さまざまな動物たちが、それぞれの距離やリズムを持ちながら、同じ世界を生きています。群れで寄り添うもの、ひとり静かに歩くもの、同じ水辺に集うもの。そこには生と死、競争と共存が混ざり合う、野生の時間が流れています。 今回のフォーラムのテーマである「平和」と向き合ったとき、私の中に浮かんできたのは、アフリカの大地であるがままに「ともに生きる」、さまざまないのちの姿でした。 本展では、遠いアフリカの野生に目を向け、その姿を見つめることから、異なるいのちが「ともに生きる」ということに思いを巡らせず。写真を前に、それぞれの中にある「平和」や「ともに生きる」ということを、静かに見つめる時間になればと思います。 ●写真家からのメッセージ: 私はこれまで、アフリカの大地で生きる動物たちに、何度もカメラを向けてきました。彼らの姿を見つめていると、ただ自分のいのちを生きることの強さや美しさに、何度も心を動かされます。そして、地球のどこかで今日もこうしていのちが生きていることに、不思議な安心を覚えます。 生きるということは本来、とてもシンプルなことなのかもしれません。今回の写真展が、遠いアフリカのいのちと出会い、自分たちが生きる世界や、その中にある「平和」を、ほんの少し違う角度から見つめる時間になればうれしいです。 ●プロフィール: 写真家。大学在学中に世界一周を経験し、多くの命輝く瞬間に出会ったことから、ビジュアル表現の道を志す。映像制作やメディアコンサルタントの活動を経て、現在は長野県で、自然の中で育つ娘との暮らしを送りながら、写真と言葉による表現活動が続ける。アフリカ南部を中心に、各地の自然や野生動物を撮影し、いのちの気配や生きることの輪郭を見つめてい	ガレージロッジ NO.6

る。動物たちの真っ直ぐな生への意志を通して、生きることの無条件の肯定を伝えたい。

※こちらの建物は、大雨や落雷などの緊急時に、子どもプログラムの避難場所となるため、写真展を一時中止する場合がございます。あらかじめご了承ください。

●特別プログラム4: 燻製体験

タイトル・日時・内容	会場
【燻製体験】 ●講師: 中村 洋次郎 さん(軽井沢いぶる) ●日時: 10月11日(日)16:15~18:15 ●参加可能人数: 20名程度 ●子ども同伴: ○ ●概要: 信州の食材を使って楽しむ、燻製ワークショップ。 軽井沢いぶるのスタッフから、食材に合わせた燻し方や香りの引き出し方を教わりながら、燻製のおもしろさを体験します。煙の向こうで食材がどう変わるのか。五感を使って、できあがり待つ時間も楽しみましょう。 ●講師からのメッセージ: 信州の食材が、煙と時間の力でどんな味合いに変わるのでしょうか。軽井沢いぶるならではの燻製の技と奥深さに触れながら、香り、色、味の変化を一緒に楽しみましょう。火を囲み、おいしいを分かち合うひとときから、小さな「世界平和」が生まれますように。 ●プロフィール: 白馬村出身、東京のレストランで約10年間、フランス料理の研鑽を積む。その中で地方料理としての燻製と出会い、その奥深さに惹かれる。その後、軽井沢へJターン移住。「軽井沢いぶる」にてシェフを務めた後、製造責任者として燻製づくりに携わり、素材の魅力を引き出す燻製の技術と知識を深めている。	ガレージロッジ NO.4

●特別プログラム5:MORI - YO - NIGHT 交流会(モリヨナイト)

タイトル・日時・内容	会場
【MORI - YO - NIGHT ～来たら会える・月に一度 森の仲間が見える夜～】 ●主宰: 森のようちえん全国ネットワーク連盟 普及ネットワーク部会 ●日時: 10月11日(日)17:00～18:00 ●概要: 今年5月から月1で行われている、全国ネットワーク連盟主催のオンラインサロン。 今回、全国フォーラムの開催期間中は特別に、実際に会って語らえるリアルサロンを開催いたします。初参加の方も、どうぞお気軽にご参加ください。 ●講師からのメッセージ: ・全国の森のようちえん実践者の“リアルな声”をその場で聞けます。 ・「あの人にまた会えた！」と思える、全国の仲間とのつながりが生まれます。 ・現場での悩みや工夫、地域ごとの取り組みを気軽に共有できます。 ・森のようちえんの“今”を知り、明日からの活動のヒントを持ち帰れます。 ・オンラインだからこそ生まれる、ゆるやかで温かな全国交流を一緒に楽しみましょう。 ・フォーラム会場ならではの雰囲気や、ここだけの話もぜひお楽しみに！ ●プロフィール: NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟 普及ネットワーク部会です。全国の森のようちえんや自然保育の実践者、保護者、関心のある方々をゆるやかにつなぎ、「学び合い・語り合い・出会い合う」場づくりを行っています。現場の実践や想いを共有しながら、子ども・自然・地域を大切にしたい共育の輪を全国へ広げています。	ムーンベア前 焚き火

●特別プログラム6: 馬と子どもの育ちの場を探求する(詳細ページ別途有)

タイトル・日時・内容	会場
【馬と子どもの育ちの場を探求する ～馬との対話から、私たちの暮らし・生き方を捉え直す～】 ●主催: 横山 晴樹 さん(うまや七福)、 黍原 豊 さん(一般社団法人 三陸駒舎)、 伊織 くん(北海道和種馬(道産子)、5歳) ●日時: 10月10日(土)11:00 ～ 12日(月)15:30 ●講師からのメッセージ: 人類は、紀元前から現代に至るまで、今もなお戦争を繰り返しています。社会が発達し、テクノロジーが進化して、私たちの暮らしが安全便利快適になってもそれは変わっていません。平和な社会であり続けるためには、何をどうしていったらいいのでしょうか？人間を中心に据えた思考は、限界を迎えているように感じます。 馬の力に頼ることで、人間を中心とした思考から脱却ができるかもしれません。「体験」と「対話」の2つのパートから、馬から学び、身体を通して、思考を巡らせ、「私」の中から生じる「平和」の在り方を探求しましょう。 ●プロフィール: 横山 晴樹(よこやま はるき): 世界を旅するなか馬と暮らす人に出会い、そんな暮らしが残る伊那市に移住し農耕馬文化を継承する。伊那の高遠町山室で、馬耕や馬搬を営むため2011年に「うまや七福」を開く。	ホースエリア

伊織(いおり):北海道和種馬(道産子)、5歳。2024年にデビュー。

黍原 豊(きびはら ゆたか):

岩手県釜石市で、築100年を超える古民家で馬4頭と共に暮らす。被災地の子ども達にホースセラピーを届けることを目的に2015年に三陸駒舎を設立。野外で人づくりに取り組む全国のリーダーを表彰する「ジャパン アウトドア リーダーズ アワード2024」で大賞を受賞。

※有料体験については、初日のプログラムは事前申込み制・先着順です。

※2日目以降の事前申込みは、10/10(土)より開始します。

※詳細は「要綱 別冊」のP.14～をご覧ください。

●特別プログラム7: 焚き火BAR(場) (詳細ページ別途有)

タイトル・日時・内容	会場
【焚き火BAR(場)】 ●主催:実行委員 ●日時:10月10日(土)16:00 ~ 12日(月)10:15 ●概要: 参加者、ラボの講師、連盟理事、実行委員が、互いに立場や肩書きを超えて、自由に対話できる場です。ラボ講師の滞在スケジュールは【要綱 別冊】をご覧ください。 ●実行委員からのメッセージ: みなさんにおすすめしたいのが、特別企画「焚き火BAR(場)」です！ 今回の会場「ライジングフィールド軽井沢」だからこそ実現できた企画。 焚き火BAR(場)では、朝から晩まで焚き火が燃え続け、そこにラボ講師として登壇するゲストたちが、入れ替わり立ち替わり現れます。 火を前にすると、人は自然と心を静め、自分自身を取り戻していくことができると言われています。ラボに出続けるのもいいけれど、フォーラム期間中は何かと気忙しく、自分の時間的・空間的スペースが欲しくなります。 また、ラボには定員があるため、気になる講師のラボすべてに参加できるわけではありません。聴きそびれた講師の話を少しでも聴きたい、肩の力を抜いてゆっくり対話したい。 そんな声にお応えし、焚き火を囲みながら、時にラボ以上に濃いひとときを過ごせるのが、この「焚き火BAR(場)」。 森のようちえん全国交流フォーラムは、全国各地から実践者、研究者、行政関係者、学生たちが集まる貴重な機会です。焚き火を囲みながら、立場や肩書きを越え、たくさんの熱い議論や対話が生まれることを願っています。 ラボ講師の皆さんを中心に対話の花が咲けば、そこにはきっといい風が吹く。この風に吹かれるだけでも、フォーラムに参加する価値があります。 フォーラム会場は、どこでも語り合うことができますが、「焚き火BAR(場)」は、その中でもとっておきの特別な場所。ぜひ、立ち寄ってみてください。	TAKIBI BASE 他

※詳細は「要綱 別冊」のP.21～をご覧ください。

4-1. 詳細：特別プログラム6（馬プログラム）

「馬と子どもの育ちの場を探究する ～馬との対話から、私たちの暮らし・生き方を見つめ直す～」

- 案内人：横山 晴樹（うまや七福）、黍原 豊（一般社団法人 三陸駒舎）
伊織（北海道和種馬（道産子）、5歳）
- 場所：ホースエリア
（ライジングフィールド軽井沢内・ガレージロッジとムーンベアの間の林）



口上「馬は平和のあり方の天才だ」（プログラム開催にあたって）

人類は、紀元前から現代に至るまで、今もなお戦争を繰り返しています。社会が発達し、テクノロジーが進化して、私たちの暮らしが安全・便利・快適になっても、それは変わっていません。平和な社会であり続けるためには、何をどうしていったらいいのでしょうか？人間を中心に据えた思考では、すでに限界を迎えているように感じます。

そこで、馬の力に頼ることで、人間中心の思考からの脱却を目指します。その理由は2つあります。

（1）馬の群れと多様なものとの関係性

馬は大型の草食動物でありながら角や牙を持たず、戦って群れを守るのではなく、走って逃げることで生き延びてきました。馬の群れの成り立ちも特徴的で、固定化されたりリーダーはおらず、その時々状況に最も適した馬が都度リーダーとなります。例えば飲み水が必要なときは水源を知る馬が群れを引き連れ、外敵が近づいたときは力のある馬が外敵を牽制しながら群れを逃がします。ピラミッド型の上下関係ではなく、それぞれが横につながったネットワーク型の組織形態です。これは、これからの組織やコミュニティのあり方、多様なものとの関係性や民主的な場づくりを考える上で大きな示唆を与えてくれます。しかもその気づきは、頭の中だけでなく身体感覚として立ち現れます。

（2）心身一致の調和

命を脅かす外敵が近くにいないければ、馬は頭を下げ静かに草をはみます。馬は安全と安心を求めて暮らし、そこには「調和」がベースとして存在します。それは馬と馬との調和だけでなく、馬とその周りの環境との調和もそこにはあります。馬は、外部からの情報・刺激を受け取り、身体を通して応答します。周りの環境の変化に合わせて応答は変化し続け、その繰り返しの先に、周りの馬や環境との調和が生まれます。その身体の応答は心

理的状態にも直結しており、心身一致の状態にあります。その調和は表面的なものではなく、心身の深い部分で訪れています。

馬が私たちに気付かせてくれる「多様なものとの関係性への示唆」、「深い部分で訪れる調和」は、どちらも平和の基盤となります。馬との対話、仲間との対話、自らの心身との対話を重ねながら、フォーラム全体の流れとも絡み合わせ、馬と共に平和への道を模索しましょう。

本プログラムの構成 ～「体験」と「対話」を行き来する

このプログラムでは、「体験」と「対話」の2つのパートを通じて馬から学び、身体を通して思考を巡らせ、私の身体の中から生じる「平和」のあり方を探求します。

体験パート

大人のみ対象のものと、子どもと一緒に参加できるものがあります。有料・無料、どちらの体験もあります。

▼馬とのコミュニケーション体験 ～馬との関わりから自らの在り方を捉え直す

引き馬（馬と一緒に歩く）や調馬索（馬を追って円状に走らせる）などの体験を通して、自らのコミュニケーションやリーダーシップのやり方を知り、他者と対峙するときの在り方を見つめ直します。馬は、その人を映す「鏡」と言われます。本人が意識できていない状態も、馬は身体の動きで応答して知らせてくれます。その応答を丁寧に振り返ることで、自らの課題に気付いたり、心理的状态を探ったりします。現場での子どもとの関わり方や組織のあり方、生き方を捉え直すきっかけが見えてくるかもしれません。

- 対象：大人（高校生ぐらいから）
- 所要時間：約90分
- 定員：各回5名
- 料金：8,500円

▼馬との出会い体験～馬と心を通わす～

言葉だけではないコミュニケーションで、馬と気持ちを通わせてみましょう。エサやり、毛並みのブラッシング、引き馬を通して、馬との距離を縮め、最後に乗馬をさせてもらいます。

- 対象:子ども～大人(子どもは3歳ぐらいから、保護者同伴で)
- 所要時間:ショート40分／ロング60分
- 乗馬時間:ショート5分／ロング10分程度 (乗り降りも含む)
- 定員:ショート4名、ロング5名
- 料金:ショート:3,000円／ロング:4,500円

▼引き馬乗馬

軽井沢の自然の中で、馬に揺られながら過ごすひとときです。スタッフが引く馬に乗ってのんびりと歩いてみれば、目線も高くなり、心身が解放されます。

- 対象:子ども～大人(子どもは3歳ぐらいから、保護者同伴で)
- 所要時間:5分程度
- 定員:10名
- 料金:1,000円

▼飼い付け(朝飼い、昼飼い、夕飼い)、ボロ掃除【無料】

1日3回、牧草や水やりをする飼い付けと馬の糞を掃除するボロ取りを行います。馬の暮らしの基盤となるこの部分こそ、実は一番重要です。日々のルーティーンが、暮らしの流れをつくり、私たちの身体を養います。

- 対象:子ども～大人(子どもは3歳ぐらいから、保護者同伴で)
- 所要時間:5-15分程度
- 申込:事前の申込は不要です。時間までに馬の居るところにお集りください。
- 料金:無料

対話パート

対話パートは、集まった方々と共に内容を創り上げていく時間です。テーマや登壇者は一応設定していますが、飛び入り参加や、対話したいテーマのリクエストも歓迎です。

▼馬との暮らしについての語らい

前半は、「鍵となる対話」として、馬との暮らしの実践者や馬との暮らしに関係が深い方と共に様々な視点や問いが投げかけられます。前半のその対話を受けて、後半は集まった皆さんと共に、馬の目線から自分たちの実践や暮らしを見つめていきます。

- 対象:大人(子ども同伴可)
- 所要時間:1時間～1時間半程度

- 料金:無料

▼馬とこれからの暮らしをデザインする

最後の対話は、馬との出会いやこれまでの対話を受けて、自分の中に湧き起こる思いや願いをより具体的なイメージへと落とし込み、それぞれの現場やひとりひとりの今後の暮らしを描いていく時間です。「実際に馬との暮らしを始めてみたい」「馬と何らかの接点を持ちながら暮らしたい」「馬との体験から得られたものを今後の活動に活かしたい」——そうした思いを持つ方はもちろん、馬との暮らしは難しくても、馬の視点から自身の暮らしや生き方を見つめ直したいという方も、共に対話をしましょう。フォーラム全体の流れから受け取ったものも重ね合わせながら、馬と共に歩む平和への道筋を探ります。

- 鍵となる対話:横山晴樹、黍原豊、他未定
- 対象:大人(子ども同伴可)
- 所要時間:2時間
- 料金:無料

スケジュール

1日目 10/10(土)

時間	内容	参加の仕方
11:00-12:30	【有料体験】馬とのコミュニケーション体験 1回90分@8,500円(5名まで) 子ども参加:不可、同伴可	事前申し込み制 (当日現金払い) ※キャンセル要連絡
12:30	【無料体験】昼飼い(昼の餌やり) ボロ取り(放牧地の掃除)	現地集合、一緒に行く
16:00-17:30	【有料体験】馬との出会い体験(ショート) 1回40分3,000円(4名×2組まで) 子ども参加:可	事前申し込み制 (当日現金払い) ※キャンセル要連絡
17:30	【無料体験】夕飼い(夕方の餌やり)	現地集合、一緒に行く
19:15-20:15 (夕食交流会中)	【対話】馬との暮らしについての語らい(1) 鍵となる対話:横山、黍原、清水蛍(実行委員) 子ども同伴:可	現地集合、自由参加

2日目 10/11(日)

時間	内容	参加の仕方
6:00	【無料体験】朝飼い(朝の餌やり)	現地集合、一緒に行く
7:30	【無料体験】ボロ取り(放牧地の掃除)	現地集合、一緒に行く
10:00-11:00	【有料体験】馬との出会い体験(ロング) 1回60分@4,500円(5名まで) 子ども参加:可	現地受付(定員になり 次第締め切り)
12:00	【無料体験】昼飼い(昼の餌やり)	現地集合、一緒に行く
12:30-14:00	【対話】馬との暮らしについての語らい(2) 鍵となる対話:小菅 江美さん、横山、黍原 子ども同伴:可	現地集合、自由参加
14:30-15:30	【有料体験】馬との出会い体験(ロング) 1回60分@4,500円(5名まで) 子ども参加:可	現地受付(定員になり 次第締め切り)

16:00	ボロ取り(放牧地の掃除)	現地集合、一緒に行く
16:30-17:30	【対話】馬との暮らしについての語らい(3) 鍵となる対話:登壇者未定 子ども同伴:可	現地集合
17:30	【無料体験】夕飼い(夕方の餌やり)	現地集合、一緒に行く

3日目 10/12(月・祝)

時間	内容	参加の仕方
6:00	【無料体験】朝飼い(朝の餌やり)	現地集合、一緒に行く
7:30	【無料体験】ボロ取り(放牧地の掃除)	現地集合、一緒に行く
8:30-10:30	【対話】馬とこれからの暮らしをデザインする 鍵となる対話:横山晴樹、黍原豊、他未定 子ども同伴:可	現地集合、自由参加
13:30-15:30	【有料体験】引き馬乗馬 1回1,000円(10名まで) 子ども参加:◎	現地受付(定員になり 次第締め切り)

有料体験の申し込み方法

有料体験の申し込みは以下からお願いします。

初日のプログラムは事前申し込み制となります。先着順。

2日目以降の事前申し込みは、10/10(土)より申し込みを開始します。

LINEオープンチャット、フォーラム会場の案内板などからご案内します。

- お申込リンク: <https://kamakoma.org/moriyo2026-10/>
携帯からの場合はこちらのQRコードから▶



特別プログラム6についてのお問い合わせ

本プログラムのお問い合わせは、以下のメールへお願いします。

- 担当: 黍原(本プログラム案内人)
- kama.koma55+moriyo2026@gmail.com

馬プログラム案内人



横山 晴樹(よっさん)うまや七福

長野県伊那市高遠町 1977年生まれ。高校卒業後、会社勤めに疑問を持ち、自分の本当の生き方を探して、7年間、ニュージーランドやモンゴルなどの世界37カ国を旅する。その時、海外の馬との暮らしに感動したが、同時に、自分が日本のお米や味噌、漬物などの作り方を知らないことを痛感。帰国後、馬との暮らしを夢見て牧場で働いた後、長野・高遠のNPO法人フリーキッズ・ヴィレッジで、山村留学の子ども達と自給自足を目指す大家族生活のスタッフとなった。結婚後の2012

年、「うまや七福」として独立。築100年の古民家をたくさんの仲間と改築して、馬と田畑を耕し、自給自足を目指した暮らしを始める。現在、妻と娘2人、馬の伊織(北海道和種馬5歳)、犬、猫と一緒に暮らし、地域の仲間と村づくりを楽しむ日々。

<https://umaya7fuku.jimdosite.com/>



黍原 豊(きびはら ゆたか)一般社団法人三陸駒舎

岩手大学農学部卒業後、森と風のがっこう(葛巻町)、県立児童館いわて子どもの森にて、環境教育、子どもの居場所づくり等に携わる。2013年から釜石市にて、釜援隊として復興まちづくりに携わる中で、地域固有の文化の再生と継続的な子ども支援の必要性を実感し、2015年4月に三陸駒舎を設立。現在、市内外から毎月延200名の子どもにホースセラピーを提供する。全国で野外で人づくりに取り組むリーダーを表彰する、

ジャパン アウトドア リーダーズ アワード 2024 大賞を受賞。

<https://kamakoma.org/>

4-2 詳細: 特別プログラム7「焚き火BAR(場)」

火を前にすると、人は自然と心が静まり、内省や対話が進む。と、焚き火を体験した人からよく聞きます。

「焚き火BAR(場)」は、参加者、ラボの講師、連盟理事、実行委員が、互いに立場や肩書きを超えて、自由に対話できる場です。ここには、朝から晩まで焚き火があり、そこにラボ講師として登壇してたゲストたちが、入れ替わり立ち替わり現れます。

- ラボに出続けるのもいいけれど、フォーラム期間中は何かと気忙しく、自分の時間的・空間的スペースが欲しくなる。
- ラボには定員があるため、気になる講師のラボすべてに参加できるわけではない。
- 参加が叶わなかった講師の話を少しでも聴きたい。
- 肩の力を抜いて互いにゆっくり対話をしたい。

——そんな声にお応えし、焚き火を囲みつつ、時にラボ以上の濃いひとときを過ごせるのが、この「焚き火BAR(場)」です。

今回、会場がキャンプ場である「ライジングフィールド軽井沢」だからこそ実現できたもので、長野の実行委員としても力を入れてきた企画のひとつです。

森のようちえん全国交流フォーラムは、全国各地から実践者、研究者、行政関係者、学生たちが集まる貴重な機会です。ラボ講師の皆さんを中心に対話の花が咲けば、そこにはきっといい風が吹く。この風に吹かれるだけでも、フォーラムに参加する価値があります。

フォーラム会場は、どこでも語り合うことができますが、「焚き火BAR(場)」は、その中でも、とっておきの特別な場所。焚き火を囲みながら、たくさんの熱い議論や対話が生まれることを願っています。ぜひ、お立ち寄りください。

- 8/15現在、以下に記載の方々が「焚き火BAR(場)」に参加予定です。
- 焚き火BAR(場)の場所は、ライジングフィールド軽井沢「TAKIBI BASE」のほか、数ヶ所を予定しております。
- ラボとは異なる性質のため、時間通りに講師が焚き火BAR(場)にいない場合もございます。また、事情により、当日場所や講師が変更になることがあります。あらかじめご了承ください。

【焚き火BAR(場)スケジュール】

焚き火BAR(場) 1日目		open16:00-close18:30			
	TAKIBI BASE	ムーンベア前	ガレージロτζ前	スカイフィールド	
14:00					
15:00					
16:00					
17:00	内田 幸一	高森 茂範 さん		鈴木 岳	
18:00	川口 拓 さん	表現コミュニケーションLab.さん	渡邊 宣明 さん		

焚き火BAR(場) 2日目		open9:30-close18:00			
	TAKIBI BASE	ムーンベア前	ガレージロτζ前	スカイフィールド	
9:00					
10:00	小林 成親				
11:00					
12:00	高森 茂範 さん	大野 さゆりさん			
13:00	鈴木 岳 上村 愛子 さん	金山 賢 さん	西野 博之 さん 竹内 延彦	汐見 稔幸さん 中澤 眞弓	
14:00		表現コミュニケーション Lab. さん			
15:00	ママチルススタッフ	福田 翔 さん			
16:00	熊野 亘 さん 奥田 悠史 さん	稲葉 俊郎 さん			
17:00			島袋 伸子 さん	汐見 稔幸さん 中澤 眞弓	
18:00	鈴木 秀弘 さん	MORI-YO-NIGHT	西海 太介 さん		

焚き火BAR(場) 3日目		open9:00-close10:15			
	TAKIBI BASE	ムーンベア前	ガレージロτζ前	スカイフィールド	
9:00	JOLA受賞者 集まれ～				
10:00		神戸 和佳子 さん	戸来 祐子 さん	荒谷 大輔 さん	
11:00					

5.ラボ一覧(詳細版)

ラボのお申し込みはこちらから▶



〈ラボ1🍎目覚め〉10月10日(土)16:45～18:15【選択任意】

※凡例:「子ども同伴」◎ぜひどうぞ、○可能、△条件あり、NGご遠慮ください。

番号	タイトル・講師紹介・持ち物など	会場
1-1	【ドキュメンタリー映画『はだしのゲンはまだ怒っている』】 制作:東京サウンド・プロダクション 制作協力:ネツゲン 配給:アギィ 製作:BS12トゥエルビ 2025年 90分 ● ラボの形式:映画上映 ● 参加可能人数:50人 ● 子ども同伴:◎ ● 持ち物:特になし ●上映スタッフ:tomo(尾形 友秀)さん(エルシュテール株式会社 代表取締役) ●担当実行委員からのメッセージ: -まだ怒っているゲンが、私たちに問いかけてきます。平和ある未来はあるのだろうか- いま、この揺れ動く時代の中で、私たちは子どもたちにどんな未来を手渡せるでしょうか。そして、 「あの頃」子どもたちだった人たちから、何を受け取ることができるでしょうか。今年のフォーラム のテーマである「世界平和」を考える場だからこそ、ともに分かち合いたい映画を上映します。 ●プロフィール: 誰もが知る『はだしのゲン』。 広島に落とされた原子爆弾で被爆し、家族を失った作者中沢啓治さんご自身の経験によって描かれた、不朽の名作マンガです。貧困や偏見に苦しみながらも力強く生き抜く姿は、発売から半世紀以上経った今でも世界中の人々の心を揺さぶり続けています。 本作は、メディアアンビシャス映像部門大賞、第15回衛星放送協会オリジナル番組アワード番組部門〈ドキュメンタリー〉最優秀賞などを受賞したBS12スペシャル『『はだしのゲン』熱伝導～原爆漫画を伝える人々～』(2024年9月放送)の映画化です。 『はだしのゲン』の誕生から現在を見つめ、私たちが生きているこの世界に溢れる怒りや悲しみ、そして優しさを映し出しています。	スカイフィールド (スカイアーク)
1-2	【森のようちえんとは】 講師:石井 千穂 (いしい ちほ)さん (森のようちえん まめとっこ / 森のようちえん全国ネットワーク連盟理事) ● ラボの形式:講演	ガレージ ロッジ No.4

	- 参加可能人数: 30人 - 子ども同伴: ○ - 持ち物: 特になし ●講師からのメッセージ: 「森のようちえんって、そもそも何なんだろう？」 そんな素朴な問いを入り口に、初心者の方にも分かりやすく、森のようちえんの考え方や背景、そこで大切にされていることを共有したいと思っています。 また、「信じる・待つ・見守る」とはどういうことなのか、そしてこれからの時代の中で、森のようちえんがどのような役割を担っていくのかについても、参加者のみなさんと一緒に考え、対話できる場にできたらうれしいです。 ●プロフィール: 一新米母として森のようちえんに出逢い、2011年に広島市安佐南区にて共同保育型の「森のようちえん まめとっこ」を開園。息子2人を0歳から森で育てる。 「信じる・待つ・見守る子育て親育ち」を理念に、認可外保育施設・親子クラス・オルタナティブスクールを運営。独学で保育士資格を取得。NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟理事、ひろしま自然保育推進協議会副会長。自然と人、こどもと大人をつなぐ活動を行っている。	
1-3	【人形劇と語りと歌「性 人権 命」】 講師: 木島 知草 (きじま ちぐさ)さん(がらくた座) - ラボの形式: 人形劇、歌、紙芝居 - 参加可能人数: 30人 - 子ども同伴: ◎ - 持ち物: 特になし ●講師からのメッセージ: 楽しくワクワクする人形劇を通して、性・人権・命について、子どもも大人も一緒に学び、感じ、考える時間をお届けします。 ●プロフィール: 全国で活躍する「ひとり人形劇、がらくた座」による参加型人形劇！ 幼児から大人まで、さまざまな教育現場で「性」を人権・愛・平和の教育として伝えている、「ちいばあ」こと木島知草です。	ガレージ ロッジ No.8
1-4	【「遊び」と平和】 講師: 大野 さゆり(おおの さゆり)さん(TOKYO PLAY / 政策研究大学院大学修士課程) - ラボの形式: 講演 - 参加可能人数: 20人 - 子ども同伴: ○ - 持ち物: 特になし ●概要: 当ラボの要は、『遊びのマニフェスト』第2弾をわかちあう場です。 ●講師からのメッセージ: みなさんは、Play Manifestoという言葉を知っていますか？ 遊ぶことを保障する政策について、民間団体が積極的に発信し、議員さんのマニフェストや、自治体の来年度の予算採り材料として、活かしてもらおうとするものです。	ガレージ ロッジ No.3

	2027年春の統一地方選挙に向けて、TOKYO PLAYも『遊びのマニフェスト』第2弾を発表します！（7月末予定） 執筆する中で、国内外様々な資料にあたったところ、私もたくさんの発見がありました。 みなさんとそれをわかちあい、一緒に考えることができたと思っています。 ●プロフィール： 製造業におけるコンサル営業、企業内人財育成を経て、子どもや学びの領域へ。 練馬区立こどもの森（プレーパーク）、MIMIGURI、日能研などを経て現在はTOKYO PLAYと政策研究大学院大学修士課程の二足の草鞋。 東京都の委託で小中高生向け大規模アウトリーチヒアリングに従事したことをきっかけに、公共政策に興味を持ち、遊ぶ権利が保障される政策づくりについて考える毎日。 修論テーマは公園の暑さ対策で検討中。	
1-5	【「森のようちえん」×「焚き火」×「暮らし」】 講師：笠倉 秀貴（かさくら ひでたか）さん （NPO法人国際自然大学校 / 森のようちえん全国ネットワーク連盟理事） ● ラボの形式：ワークショップ ● 参加可能人数：20人 ● 子ども同伴：○ ● 持ち物：特になし ●講師からのメッセージ： 近年、日常の暮らしの中で火を扱う機会が少なくなってきました。だからこそ、森のようちえんでは、火を扱うことが大切な時間となっているかと思います。 しかし、焚き火の取り扱いには当然リスクが伴います。それらのリスクをコントロールするために、あらためて焚き火のリスクやノウハウを学び、又は、再確認する場として火を囲みましょう。 ●プロフィール： 森のようちえん全国ネットワーク連盟理事。青少年教育施設にて森のようちえん事業を実施。森のようちえん全国交流フォーラム実行委員（2013年神奈川及び2022年富士山）。 森のようちえん、環境教育、食育などの体験を通じて、暮らしの中に自然が関わり、感じられる家庭・社会を目指し活動しています。	TAKIBI BASE （ラボエリア）

〈ラボ2 吸収〉10月11日(日)9:30～11:30【選択必須】

番号	タイトル・講師紹介・持ち物など	会場
2-1	【子どもたちに手渡す未来のために、今私たちができること】 講師: 西野 博之(にしの ひろゆき)さん (学校外の学びと育ちの場づくり40年。元川崎市子ども夢パーク所長) ● ラボの形式: 講演 ● 参加可能人数: 100人 ● 子ども同伴: ○ ● 持ち物: 特になし ●講師からのメッセージ: 「ふつう」「あたりまえ」を疑ってみよう。「正しい親」を、頑張らなくていい。「ゆる親」でいいんです。 ●プロフィール: 認定NPO法人フリースペースたまりば理事長。川崎市子ども夢パーク・フリースペースえん他、各事業総合アドバイザー。1986年より不登校児童・生徒や高校中退した若者の居場所づくりにかかわる。1991年、川崎市高津区にフリースペースたまりばを開設。 不登校児童・生徒やひきこもり傾向にある若者たち、さまざまな障がいのあるひとたちとともに地域で育ちあう場を続けている。2003年7月にオープンした川崎市子ども夢パーク内に、川崎市の委託により公設民営の不登校児童・生徒の居場所「フリースペースえん」を開設、その代表を務め、2006年4月より川崎市子ども夢パークの所長に就任。2021年3月までの15年間所長を務めた。 神奈川大学非常勤講師。精神保健福祉士。 著書に『居場所のちからー生きてるだけですごいんだー』(教育史料出版会)、『西野流「ゆる親」のすすめ<上>7歳までのお守りBOOK～「正しい母さん・父さん」を頑張らない。～』『西野流「ゆる親」のすすめ<下>10歳からの見守りBOOK～だいじょうぶのタネをまこう。～』(ジャパンマシニスト社)、『マンガでわかる! 学校に行かない子どもが見ている世界』(KADOKAWA)等多数。	スカイフィールド (芝エリア①)
2-2	【いのちを呼びさます場とは ― 森と子どもの可能性を考える ― 】 講師: 稲葉 俊郎 (いなば としろう)さん(医師 / 医学博士 / 作家) ● ラボの形式: 講演 ● 参加可能人数: 100人 ● 子ども同伴: ○ ● 持ち物: 椅子(お持ちの方) ●講師からのメッセージ: 森で過ごす子どもの身体や経験を起点に、人間の体のこと、心のこと、命のこと、そうした根本的なことを共に学べる場にしたいです。 ●プロフィール: 医師、医学博士、作家。東大病院循環器内科、軽井沢病院長勤務を経て、慶應義塾大学SDM研究科 特任教授、東北芸術工科大学 客員教授(山形ビエンナーレ2020, 2022, 2024芸術監督)。 「いのちを呼びさます場」として、湯治、芸術、音楽、物語、対話などが融合したwell-beingの場の研究と実践に関わる。西洋医学だけではなく伝統医療、補完代替医療、民間医療も広く修め、	スカイフィールド (芝エリア③)

	医療と芸術、福祉など、他分野と橋を架ける活動に従事している。	
2-3	【センスオブワンダー 森の時間 森を知り、学ぶ】 講師：加々美 貴代（かがみ たかよ）さん （NPO法人やまぼうし自然学校代表理事 / 自然体験活動推進協議会理事 / 長野県キャンプ協会理事） ● ラボの形式：ワークショップ ● 参加可能人数：20人 ● 子ども同伴：○ ● 持ち物：動きやすい格好、レインウェア（本格的なものでも良い） ●講師からのメッセージ： 森を歩きながら木々や草花、虫や鳥、風や光など自然が見せてくれる小さな発見に目を向けます。知識を増やすことだけが目的ではありません。自然の中で「きれい」「不思議」「なぜだろう」と心が動く瞬間を大切に、五感を使って森と向き合います。 レイチェル・カーソンが提唱した「センス・オブ・ワンダー（自然への驚きや感動する心）」を体験しながら、森の営みや生きもの同士のつながり、人と自然との関わりについて楽しく学びます。自然に詳しい方も、初めて森をじっくり歩く方も大歓迎です。森で過ごす豊かな時間を通して、自然を見る目が少し変わる。 そんなひとときを一緒にしましょう。 ●プロフィール： NPO法人やまぼうし自然学校代表理事。安曇野市出身。山形大学農学部林学科卒業。造園会社勤務を経て自然体験・環境教育の世界へ。 2002年よりやまぼうし自然学校に勤務し、2008年から代表理事を務める。 「森とつながり、森とともに生きることのできる人を育てる」を理念に、幼児から大人までを対象とした自然体験活動や環境教育、指導者養成に携わる。学校教育との連携による自然体験学習、森林インタープリテーション、森林インストラクター養成講座などの企画・運営を数多く手掛け、これまでに多くの子どもたちや教育関係者の学びを支えてきた。	ガレージ ロッジ No.2
2-4	【オリンピックとスポーツ医学博士が語る 自然の中で育つ意味 ～平和の祭典が教えてくれたこと、森が育む未来～】 講師：鈴木 岳（すずき たけし）さん（スポーツ医学博士 / アスレティックトレーナー） 上村 愛子（うえむら あいこ）さん （女子フリースタイルスキー / モーグルの元選手 / モーグル五輪5大会出場） ● ラボの形式：対談 ● 参加可能人数：100人 ● 子ども同伴：○ ● 持ち物：特になし ●講師からのメッセージ： 平和な未来のために、こどもたちへ何を残せるのか。長野の自然の中で育った経験を踏まえて、皆さんとそのヒントを考える時間になれば嬉しいです。当日はスポーツ医学博士の鈴木さんとお話をさせていただけるのを楽しみにしています。（上村愛子） 自然の中でからだを動かすことは、スポーツ医学の観点から、動作の機能性（自由自在にからだ	スカイ フィールド （芝エリア⑥）

	を動かす能力)を高めるのに極めて効果的であることが分かってきています。5度のオリンピック・上村愛子さんとの対談を通じて、自然保育の素晴らしさをお話します。(鈴木岳) ●プロフィール: 鈴木 岳(すずき たけし) 株式会社R-body 代表取締役、筑波大学 教授(協働大学院)、博士(スポーツ医学)、全米公認アスレティックトレーナー(NATA-ATC)。 スポーツ医学を米国で学び、2003年に株式会社R-bodyを設立。スポーツ運動療法施設の運営、医療・フィットネス機関へのコンサルティング、自治体との健康まちづくりに取り組んでいる。2002年ソルトレイク大会から2014年ソチ大会まで、5大会連続で五輪に出場した上村愛子選手をトレーナーとしてサポート。これまで夏季・冬季あわせて7度の五輪に帯同し、東京2020大会では選手村フィットネスセンターのチーフトレーナーとして世界のアスリートを支え、その取り組みは「オリンピックレガシー」として評価された。 上村愛子(うえむら あいこ) 兵庫県出身、長野県白馬村育ち。スキーマー/オリンピック(フリースタイルスキー・モーグル)/モーグル競技解説者。 1998年長野大会から2014年ソチ大会まで5大会連続で冬季五輪に出場し、全大会で入賞を果たした。世界選手権大会やW杯ではタイトル獲得を果たし、女子モーグル界における技術の先駆者として長年活躍した。現在は長野県を拠点に、モーグル競技解説やスキーの普及活動などを行いつつ、現役スキーマーとしてもスキーの幅を広げながら活動をしている。	
2-5	【表現とは？コミュニケーションとは？ ～緩み、自分を知り、人と知り合う時間～】 講師：表現コミュニケーションLab. 中澤 聖子(おせいさん)さん(ファシリテーター / 俳優 / 身体表現者) 小山 裕嗣(まんぼ)さん(ファシリテーター / 舞台演出家 / ラジオディレクター) 傳田 うに(うに)さん(ファシリテーター / 俳優 / 大妻女子大学非常勤講師) 小出 恵(めぐみん)さん(プロデューサー / 有限会社ニバイハン代表) ● ラボの形式: ワークショップ ● 参加可能人数: 20人 ● 子ども同伴: ✕(やむを得ない場合のみ○) ● 持ち物: 動きやすい服装 ●概要: 公教育で実施している表現コミュニケーションのワークを通して、自分を知り、人と知り合う時間をつくります。そして「わたし自身の心の平和ってなんだろう？」という対話の場をとものにします。 ●講師からのメッセージ: こんな問いをみなさんと考えあってみたいと思います。 ● 自分自身が今、何を感じているか(ポジティブもネガティブも)を、体験を通して知っていくこと。そのことをそのまま受け止めること。 ● 隣の人何を感じているかを、体験を通して感じる。身体と言葉の対話を通して、自分たちのそのときのベストを見つけていくこと。 ● 自然の持つ力、自然が与えてくれるもの。	ガレージ ロッジ No.1

	- 人とコミュニケーションをとるってどういうこと？ - 対話の時間「私自身の心の平和ってなんだろう？」 ●「表現コミュニケーションLab.」って？ https://commulab-perform.com/ 実践の様子は「note」に更新しています。お読みいただけましたら幸いです。 https://note.com/commulab	
2-6	【多様性を包み込む学校とは？】 講師：金山 賢（かなやま けん）さん（軽井沢中部小学校 校長） - ラボの形式：ワークショップ - 参加可能人数：25人 - 子ども同伴：○ - 持ち物：特になし ●講師からのメッセージ： 公立学校でも子どもにとって魅力ある教育課程を創造できると信じてチャレンジを続けています。子どもの学ぶ力を信じて、これまでの学校の枠組みの中に「子どもに委ねる」時間を生み出し、大人が「その子らしさ」を読み解き理解し続けることの価値を感じています。子どもの多様性を包み込む学校を創っていくには、どんなカリキュラムや環境を整えていけばよいのでしょうか？ 一緒に考えていきましょう。 ●プロフィール： 前 長野県佐久市立佐久城山小学校長。現 長野県軽井沢町立軽井沢中部小学校長。	ガレージ ロッジ No.3
2-7	【ママが「わたしに戻る」場所づくりーママチルキャンプ25年の実践から】 講師：小川 圭子（おがわ けいこ）さん （アゲハ助産院院長 / 浄光院寺庭 / 上智大学GC研究所認定臨床聴士） 川添 萌子（かわぞえ もえこ）さん （森のようちえんハーモニー代表 / ネイチャーゲームインストラクター） 小島 美紅（こじま みく）さん （株式会社コミュニティハウス ラフ・クルー大泉保育園 園長） 阿部 菜々恵（あべ ななえ）さん （森のようちえん ぴっぴ保護者・スタッフ / ネイチャーガイド） - ラボの形式：講演 - 参加可能人数：30人 - 子ども同伴：×（ご遠慮いただきたいです） - 持ち物：特になし ●講師からのメッセージ： 森の中で大人が『自分』に戻る場づくりとは...25年のママチルキャンプの中で目指してきた『大人の在り方』『親も子も、ともにほどこけていく場』の本質などについてみなさんと共に考えて行きたいと思います。森のようちえんぴっぴでの保護者たちの様子や、森のようちえんハーモニーの0歳からの親子クラスの実践も報告します。	ガレージ ロッジ No.4

	●ママチルキャンプとは： 乳幼児を子育て中のお母さんを対象にした宿泊キャンプです。 母子一緒に、また母子離れてそれぞれが森時間をゆったり過ごすことを大事に、2000年の第1回から、年1回ベースに開催してきました。母と子の自然のふれあい、しあわせな関係、子育て支援を参加者とスタッフが共に考え、感じ、シェアするキャンプです。 ママチルキャンプHP https://camp.mamachild.net/	
2-8	【幼児期に必要な環境とは？】 講師：渡邊 宣明（わたなべ のりあき）さん（教育学修士 / 信州大学大学院博士課程） ● ラボの形式：講演 ● 参加可能人数：30人 ● 子ども同伴：○ ● 持ち物：特になし ●講師からのメッセージ： 近年、子どもたちの自然体験の減少や生活環境の急激な変化は、子どもの育ちや行動にさまざまな影響を及ぼしていることが指摘されています。 「落ち着かない」「意欲が続かない」「衝動的な行動が増える」といった姿は、その一端として捉えられるかもしれませんが。 本ラボでは、幼児期における自然体験活動を基軸とした保育環境と子どもの育ちとの関係についてGO／NO-GO課題による調査結果をご紹介します。 その上で、一人ひとりの子どもが豊かに育ち、平和な社会を創造していく人間としての礎を築くために、幼児期にはどのような環境が求められるのかを、参加者の皆さんと対話を重ねながら共に考え、学び合いたいと思います。 ●プロフィール： 静岡県公立小学校教諭。教育学修士。 信州大学大学院総合医理工学研究科 社会人大学院生。 公立小学校教諭として36 年間、子どもの発育・発達に関する教育実践と研究を続けている。近年は、幼児期における自然体験活動を基軸とした保育環境と、脳の働きの特徴という視点から捉えた子どもの発達との関連をテーマに研究を進め、よりよい保育環境のあり方について実証的に探究している。2021年 森のようちえん全国交流フォーラム（奈良大会）分科会講師。	ガレージ ロッジ No.8
2-9	【シェルター作りから大地で生き抜く力を感じるブッシュクラフト ワークショップ】 講師：川口 拓（かわぐち たく）さん（WILD AND NATIVE 代表） ● ラボの形式：ワークショップ ● 参加可能人数：20人 ● 子ども同伴：✕（遠慮していただきたいです。） ● 持ち物：動きやすい多少汚れても良い格好、レインウェア（本格的なものでもなくても良い） ●講師からのメッセージ： ブッシュクラフトは、人と自然との距離を体系的に密接なものにしてくれる遊びだと思っています。 そしてまた、遊びながらサバイバル技術や防災など、人が生きるにあたって大事な学びを深める	TAKIBI BASE （ラボエリア）

	ことができます。 今回はブッシュクラフト技術の中でも、「ロープワーク、そしてその技術を用いてのシェルターづくり」を通して、自然とつながる感覚・自分の生きる力を開きましょう。技術だけでなく、自然との触れ合い方や感じ方、自然からの教えの受け取り方などをこのワークを通じて皆さんと共有できたいと思います。 服装は動きやすく多少汚れても良い格好で。また、弱雨決行のため、本格的なものでも良いのでレインウェアをお持ちください。 ●プロフィール： 幼少期から自然と共に育ち、1996～2004年にカナダ・アメリカで雪山登山、ロッククライミング、カヌー、野外救急、野外教育法、ネイティブアメリカンの原始技術と哲学など、幅広いフィールドクラフトを習得。 2001年よりWILD AND NATIVEを主宰し、2013年には一般社団法人 危機管理リーダー教育協会を設立。原始技術・アウェアネス・サバイバル・自然哲学を体系化し、一般の方から現役自衛官、警察官まで幅広く指導を続けている。	
2-10	【鳥にやさしいバードハウスを作ろう】 講師：熊野 亘(くまの わたる)さん(武蔵野美術大学教授 / プロダクトデザイナー) ● ラボの形式：講演 ● 参加可能人数：20人 ● 子ども同伴：○ ● 持ち物：材料費2,000円(現金のみ、当日支払い)、軍手、作品を持ち帰る袋 ●概要： 鳥にやさしいバードハウスを作ろう。世界平和と聞くと、とても大きなテーマに感じます。でも、その始まりは、身近な命に目を向けることなのかもしれません。 このワークショップでは、鳥たちが安心して暮らせるバードハウスを作ります。鳥の生態を知り、「使う人と作る人にやさしいデザインとは何か」を考えながら手を動かします。 私たち人間だけでなく、鳥や虫、木々も、この地球で共に暮らす大切な仲間です。相手を知り、相手を思いやることは、人と人との関係にもつながっていきます。 小さな巣箱づくりを通して、自然と共に生きることの喜びや、命へのまなざしを育む時間。長野の豊かな自然の中で、世界平和への小さな一歩を一緒に育んでみませんか。 ●講師からのメッセージ： 使う人と作る人に優しいデザインとは何でしょう。一緒に手を動かしながら考えてみませんか？ ●プロフィール： プロダクトデザイナー兼大学教授。20代にフィンランドへ留学、帰国後に2011年にデザインスタジオkumanoを設立。現在は長野を拠点に、武蔵野美術大学で木工デザインを教えながら、国内外のデザインプロジェクトに参加している。	ブッシュクラフト (ラボエリア)

〈ラボ3 吸収〉10月11日(日)14:00～16:00【選択必須】

番号	タイトル・講師紹介・持ち物など	会場
3-1	【森のようちえんを問い直す ～「教育」を意識しすぎないことの大事さ～】 講師：汐見 稔幸(しおみ としゆき)さん (育ちの視点からみた総合的な人間学がテーマの保育・教育学者) ● ラボの形式：講演 ● 参加可能人数：100人 ● 子ども同伴：○ ● 持ち物：椅子(お持ちの方は) ●概要： ドイツでは、森のようちえんは2000箇所を超えたそうですが、ドイツの森のようちえんを研究している木戸啓絵さんによれば、そこに5つの特徴があるそうです。 ①そもそも園庭がない ②既成の遊具がほとんどない ③手仕事がある ④人間中心ではない ⑤循環している場になっている 以上ですが、日本の森のようちえんを同じように特徴づけると、どういう内容になるでしょうか？今は時代の要請に応じて、エコロジカルな体験をする場、ということがより前面に出なければならなくなっているのではないのでしょうか。 そのことの意義や可能性について森のようちえんはもっと自信を持つべきだと思います。当日はこのことを中心に話させていただきたいと思います。 ●講師からのメッセージ：楽しく夢を語り合いましょう！ ●プロフィール： 汐見 稔幸(しおみ としゆき) 育ちの視点からみた総合的な人間学がテーマの保育・教育学者。1947年 大阪府生まれ。 所属：一般社団法人家族・保育デザイン研究所 代表理事 肩書：教育・保育評論家。東京大学名誉教授・白梅学園大学名誉学長・全国保育士養成協議会会長・日本保育学会理事(前会長)。 専門は教育学、教育人間学、保育学、育児学。 21世紀型の保育、学校を模索中。How toだけでなく、なぜそうすべきかを原点から考えようと努力し、それを保育者たちと共有する研修を追求している。保育が深い意味でおもしろい！と思えるようになりたいと願っている。NHK-Eテレ「すくすく子育て」「アイラブミー」など出演多数。 最近の主な著書： ● 『子どもをあらわすということ』 2025年(北大路書房)編著 ● 『子どもの生きる力をのばす5つの体験』 2025年(辰巳書房) ● 『学校とは何か-子どもの学びにとって一番大切なこと』2024年(河出書房新社) ● 『新時代の保育のキーワード 乳幼児の学びを未来につなぐ12講』2024年(小学館) ● 『見直そう！0・1・2歳児保育 教えて！汐見先生 マンガでわかる「保育の今、これから」』2023年	スカイフィールド (芝エリア③)

	(Gakken) 『汐見先生と考える こども理解を深める保育のアセスメント』2023年(中央法規出版) 『子どもの「じんけん」まるわかり』2021年(ぎょうせい) 『教えから学びへ』2021年(河出書房新社) 『今、もっとも必要なこれからのこども・子育て支援』2021年(風鳴舎) 『エール イヤイヤ期のママへ』2021年(主婦の友社) 『エール プレ思春期のママへ』2021年(主婦の友社) 『保育者のためのコミュニケーション・トレーニングBOOK』2019年(ぎょうせい) 『0・1・2歳児からのていねいな保育』全3巻 2018年(フレーベル館) 『汐見稔幸 こども・保育・人間』2018年(学研) 『「天才」は学校で育たない』2017年(ポプラ社) 『人生を豊かにする学び方』2017年(筑摩書房) 『さあ、子どもたちの「未来」を話ませんか』2017年(小学館)、ほか多数。	
3-2	【旅と絵本と子どもたち】 講師: 石川 直樹(いしかわ なおき)さん(写真家 / 探検家 / 作家) - ラボの形式: 講演 - 参加可能人数: 100人 - 子ども同伴: ○ - 持ち物: 椅子(お持ちの方は) ●概要: 自分の目で見て、世界を身体で理解したい、知ったつもりにならず、自分にとって未知のもののとの偶然の出会いを自分の実感として咀嚼していきたい……。その旅の途中で自分の体が反応したものを撮っているという、写真家、石川直樹さん。 世界8000m峰14座登頂をはじめ、カメラとともに世界のあらゆる場所を縦横無尽に旅をしながら撮るその写真の魅力は、旅の目的地だけでなく、その過程も丁寧に撮っていること。 その土地の文化や習慣、歴史にも深い興味と関心を持ち、辺境と呼ばれるような土地に生きる人々の暮らしにも目を向け、麓の村から8000mの頂上までを記録していく。 そんな旅の記録を多くの写真集や文章で発表している石川さんですが、『シェルパのポルパ』シリーズなど、大人も子どもも楽しめる絵本も出版されています。 森のようちえんフォーラムでは、石川さんがさまざまな場所で出会ってきた人々、子どもたちをテーマに、その先で感じた世界平和も含めてお話いただけたらと思っています。 ●プロフィール: 1977年東京生まれ。写真家。東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。 人類学、民俗学などの領域に関心を持ち、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。 2011年『CORONA』(青土社)で土門拳賞、2020年『まれびと』(小学館)で日本写真協会賞作家賞を受賞。最新刊『シシャパンマ』(平凡社)、『K2』(小学館)など。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』(集英社)、「地上に星座をつくる」(新潮社)ほか多数。2025年の最新刊、『最後の山』で、第15回梅棹忠夫・山と探検文学賞、第77回 読売文学賞 随筆・紀行賞を受賞した。『シェルパのポルパ』シリーズ(岩波書店)などで、子どもも楽しめる絵本も制作している。2001年から8000m峰の撮影に取り組み、2024年シシャパンマ登頂により、14座全座登	スカイ フィールド (芝エリア①)

	頂を果たす。	
3-3	【野外活動に備える — 有毒生物の応急処置】 講師：西海 太介(にしうみ だいすけ)さん(セルズ環境教育デザイン研究所 所長) ● ラボの形式：ワークショップ ● 参加可能人数：30人 ● 子ども同伴：△(講座形式のため、お子さんを対象とはしていません。また標本の破損等のないよう、お子さんから目を離さなよう願います。) ● 持ち物：特になし ●概要： 「野外活動に備える 有毒生物の応急処置」 森や里山で過ごす時間は、豊かな学びに満ちています。危険生物のリスクマネジメントの専門家である西海太介さんと一緒に、命を守る応急処置を学びませんか。一人ひとりの命を大切にすることが、人と自然が共に生きること、確かな一歩を踏み出しましょう！ ●講師からのメッセージ： 野外で活動する際には、ハチやマムシのほか、様々な毒生物など、有毒生物との接触は避けて通れません。そんな有毒生物の事故が起こってしまった際に必要なのが、適切な応急処置です。今回は、有毒生物による事故に対して、適切な応急処置の整理についてを中心にお話をしたいと思います。必要な知識を持つことは、万が一の際の現場での冷静な判断につながります。 ●プロフィール： 一般社団法人セルズ環境教育デザイン研究所 所長。玉川大学農学部非常勤講師。高尾ビジターセンター等での自然解説員経験を経て、2015年に同研究所を創業。危険生物のリスクマネジメントを専門とし、近年はマダニ対策の研究を行うほか、マムシ抗毒素(血清)の生成事業にも関わっている。メディア出演や執筆・監修などにも幅広く携わり、「危険生物対策」と「生物学」の普及に取り組んでいる。 著書に、『身近にあふれる危険な生き物が3時間でわかる本』(明日香出版社)、『危ない動植物ハンドブック』(自由国民社)など。	スカイフィールド (芝エリア⑥)
3-4	【お金がなくても生きていける世界 — 贈与経済2.0から平和を考える】 講師：荒谷 大輔(あらや だいすけ)さん(慶應義塾大学文学部教授 / 哲学者) ● ラボの形式：講演 ● 参加可能人数：25人 ● 子ども同伴：△(小学生ぐらいまでのお子さんだと話についていけないかもしれません) ● 持ち物：特になし ●講師からのメッセージ： お金とは違う価値で社会的・経済的な循環が生まれる仕組みを提案します。 ●プロフィール： 慶應義塾大学文学部教授。江戸川大学名誉教授。専門は哲学 / 倫理学。「哲学の実践」を旗印に活動をつづける。 主な著書に『贈与経済2.0』(翔泳社)、『資本主義に出口はあるか』(講談社現代新書)、『ラカンの哲学』(講談社メチエ)など。	ガレージ ロッジ No.1

	贈与経済2.0の社会実装のためのハートランド・プロジェクトを実施中。 Heartland Project: https://heart-land.io	
3-5	【「違い」を尊重して、共に育つ ― 発達特性の理解から考える共存と平和】 講師: 新美 妙美(にいみ たえみ)さん(信州大学医学部 特任助教／子どものこころ専門医) ● ラボの形式: 講演 ● 参加可能人数: 25人 ● 子ども同伴: ○ ● 持ち物: 特になし ●講師からのメッセージ: 発達特性のある子どもたちとの関わりを通して見えてくるのは、「みんな同じ」であることを求めすぎる社会の苦しさです。一人ひとり感じ方や考え方、安心できる環境は違います。違いを“治す”、同じを求めるのではなく、それぞれを尊重しながら共に育つことは、子どもの世界だけでなく、私たちの社会にとっても大切な視点ではないでしょうか。発達特性の理解を入りに、「共存」と「平和」について、日々の子どもの関わりから考えます。 ●プロフィール: 信州大学医学部子どものこころ発達医学教室 特任助教。小児科専門医、子どものこころ専門医、医学博士。2003年信州大学医学部卒。 小児科医として勤務後、子どものこころ診療に携わり、現在は発達障害や不登校の診療をしている。親子の生活を楽にするための支援活動に力を入れている。多様な子育てを応援するアプリ「のびのびトイロ」の制作スタッフ。著書「かがやけ！ ないろキッズ～発達障害すくすくサポートアドバイス」(信濃毎日新聞社)	ガレージ ロッジ No.2
3-6	【子どもの「平和をめぐる問い」からの哲学対話】 講師: 神戸 和佳子(ごうど わかこ)さん (長野県立大学大学院ソーシャル・イノベーション研究科准教授) ● ラボの形式: ワークショップ ● 参加可能人数: 20人 ● 子ども同伴: △(赤ちゃんなど話せないお子さんに限り○) ● 持ち物: 特になし ●概要: 世界の戦争の様子が多数報じられるようになってから、子どもたちが口に出す疑問にも、戦争や平和、そして「大人たちのする悪いこと」に関する問いが増えました。こうした問いをもとに、参加者のみなさんと一緒に考えを深めたいと思います。対話の形式で行います。 ●講師からのメッセージ: 子どもたちの見つける「ふしぎ」や「問い」に学ばされてきました。素直に疑問を口に出して語れる安心で安全な場をどうしたら守り育めるか、皆さんと一緒に考えたいです。 ●お子さん連れについて: 大人の対話をメインにします。赤ちゃんなど話せないお子さんは歓迎。 お話しできるお子さんは別のプログラムに参加していただく方が楽しいと思います。	ガレージ ロッジ No.3

	●プロフィール: 長野県立大学大学院ソーシャル・イノベーション研究科准教授。専門は教育哲学。自らの問いを起点に多様な他者と共に考える「哲学対話」の実践と研究に取り組む。学校のほか、企業・組織、地域社会、芸術分野などで哲学対話を実践。共著に『子どもの哲学』シリーズ(毎日新聞出版)ほか。共訳書に『子どものための哲学教育ハンドブック』ほか。NHKドラマ「虎に翼」「ここはこれから倫理です。」の倫理的な観点からの監修を務めた。	
3-7	【いのちに向き合い女を深める】 講師: 島袋 伸子(しまぶくろ のぶこ)さん (相よるいのちの会) ● ラボの形式: 講演 ● 参加可能人数: 30人 ● 子ども同伴: ○ ● 持ち物: 特になし ●概要: 日々の暮らしのなかに隠された聖なるもの。いのちを包む女性がどれほど尊い存在なのかを、記憶をひもときながらお伝えしたいです。 ●講師からのメッセージ: 日々の営みの中にいのちを守る聖なるものが宿っています。 台所に立つこと 掃除をすること そのひとつひとつが 深く尊い行為なのです。 子どもを取り巻く環境の中でもっとも大きな影響を与えるのは 母親という存在です。 母が何を大切に、どう生きているか。それがそのまま 子どものいのちの土壌になります。女性はそもそも 宇宙的な存在です。けれど多くの女性が そのことに気づかないまま 日々を過ごしています。 まず自分自身が その尊さに気づくこと——それがすべての始まり。 いのちを包む女性が どれほど尊い存在なのか。お伝え出来たら嬉しいです。 ●プロフィール: 自然なお産で知られた旧吉村医院・吉村正院長の補佐として両親学級、広報を担当。最晩年を支え、広報・書籍出版・講演活動を共にする。 吉村正氏との共著「母になるまでに大切にしたい33のこと」 ONLINE読書会を月1.2回開催。 現在は新著「いのちに向き合い女を深める——お産と祈りと日々の暮らし」を執筆中。 女性霊性への覚醒を促す活動を行っている。	ガレージ ロッジ No.4
3-8	【クーヨンが30年見つめてきたこと — 土からはじまる子どもの育ち】 講師: 戸来 祐子(へらい ゆうこ)さん(月刊クーヨン 編集長) ● ラボの形式: 座談会 ● 参加可能人数: 25人 ● 子ども同伴: ○ ● 持ち物: 特になし ●概要:	ガレージ ロッジ No.5

	子どもの育ちにたいして先回りして大人が先導するのではなく、自然な育ちを大切にしたい。そんなふうに考えて来た月刊クーヨン30年です。森のようちえんの存在にも、たいへん勇気づけられてきましたし、取材でもお世話になってきました。長らくの取材のなかで、「土」が環境にとっても、子どもの育ちにとっても、欠かせないものであることを実感しています。オーガニックなライフスタイルを広めたいというクレヨンハウスの考え方も重ねながら、子どもにとって、「土」「オーガニック」が大切な理由について、お話したいと思います。ぜひみなさまの現場での実感についても、シェアさせてください。 ●講師からのメッセージ： わたしは実践家ではないので、子どもをめぐる最先端の状況をつぶさに経験しているとは言えません。ただ、現場の専門家とは違って、すこし引いた角度からクーヨン編集を通して出会ってきたすばらしい実践について、なんとか広く知られてほしいという願いは強く持っています。 ●プロフィール： クレヨンハウスの育児雑誌[月刊クーヨン]編集長(2014年4月号より)。 教育学博士課程前期修了。こども支援士。 中高の社会科教師をめざすも、いったん社会経験を積もうと教育系の出版社に編集者として就職し、以降30年以上、広く教育や保育にまつわる出版活動に従事。うち[クーヨン]編集部では22年制作に携わる。その間、2児の育児も並行し、読者の悩みを自分でも経験しながら、企画を考えるきっかけとしてきた。食べることが育児では一番要、と、雑誌編集でも実生活でも実感中。	
3-9	【平和と保育を仏教のまなざしで結ぶ】 講師：鈴木 秀弘(すずき ひでひろ)さん(わこう村和光保育園 園長 / 真言宗僧侶) ● ラボの形式：講演 ● 参加可能人数：25人 ● 子ども同伴：○ ● 持ち物：特になし ●講師からのメッセージ： 「諦める」の語源は、仏教の「諦観(あきらかにみる)」です。私たちは、つい、分かりやすい物語に縛られ、期待を持ち、期待外れに落ち込み、イライラし…。子どもたちと描く未来や平和も然りです。 「あきらかにみる」って、なかなか簡単なことではないように思いますが、みなさんと一緒に子どもの姿(動画)を視ながら、出来事の道理に近づきたいと思います！ 本来、いのちは、どこから始まり何処へ向かうという単一な方向ではなく、様々な事柄が複雑に絡み合って顕れています。同じように、平和という概念も、子どもの育ちも、幸福も、一律なものではありません。 最近の幼児教育は、一斉画一的な指導から少しづつ離れ、個人を尊重することの重要性が謳われるようになってきましたが、それぞれが我がまま(個々別々バラバラ)に生きているだけでは、本来のないのちの活(はたら)きは、活性化されないように感じます。 ※以下活きを「はたらき」と読みます。 個々の違いが尊重され、その創発が場の物語を創り、場の物語の活きが、個々の活きを活性化させる。 このように、個々の活きと場の活きが、二重(同時・循環的)に活いていることが、〈いのち〉が続いていく仕組み(道理)なのではないでしょうか。	ガレージ ロッジ No.7

	本来、場と個の活きは、分子(場)と原子(個)や、私(場)と細胞(個)の関係から始まり、社会(場)と私(個)や、世界や地球(全体)と私(個)の関係まで、二重どころか、多重に生き合っているものです。この、いのちの多重の活きに気づき、場と個が互いに生き合う物語を創っていくことが、真の平和への道すじなのではと信じています。 以上の内容は、仏(密)教の五智(大円鏡智:出来事をありのままにみる。平等性智:全てに等しく流れているいのちの活きをみる。妙観察智:それぞれの違いを明らかにみる。成所作智:ものごとが最も自然な形でつくられるように。法界体性智:いのちの物語を生きる。)になぞらえて描いてみました。 参加者の方と、子ども達が繰り広げる出来事(わこう村和光保育園)の動画を囲んで、仏教の智慧を借りながら語り合ってみたいと考えています。 ●プロフィール: 1982年生まれ。社会福祉法人わこう村和光保育園園長。 7年間クラス担任を受け持ち、子どもや保護者、同僚に保育を学ぶ。真言宗僧侶でもあり、子どもを縁にした子コミュニティが、命の理(ことわり)に即した、育ち合いのば(土壌:浄土)と成るように、子ども・保護者・同僚と共に実践探求している。	
3-10	【こどもと民主主義をつくる ― 保育のなかで可能なこと】 講師:藤原 さと(ふじわら さと)さん (一般社団法人こたえのない学校 代表理事 / 長野県教育委員) ● ラボの形式:講演 ● 参加可能人数:30人 ● 子ども同伴:○ ● 持ち物:特になし ●講師からのメッセージ: こどもと民主主義をつくるということはどういうことかをあらためて考えてみたいと思っています。 ●プロフィール: 日本政策金融公庫、ソニー(株)戦略部門等を経て、2014年に「こたえのない学校」を設立。30以上の小学生向けの探究カリキュラムを開発・実施。2016年より学校教員・民間教育者等が探究する学び場「Learning Creators' Lab」を主宰。2026年7月より 長野県教育委員。 著書に『こどもと民主主義をつくる―教育にできること』『協働する探究のデザイン』『探究する学びをつくる』(ともに平凡社)等	ガレー ロッジ No.8
3-11	【森と暮らしの関係をリデザインする ― 子どもが育つ「森」は、誰がつくるのか】 講師:奥田 悠史(おくだ ゆうじ)さん(森林ディレクター / やまとわ 取締役) ● ラボの形式:講演 ● 参加可能人数:30人 ● 子ども同伴:○ ● 持ち物:椅子(お持ちの方は) ●概要: 森のようちえんが拠り所とする森は、放っておけばそのまま在り続けるものではありません。手入れが止まった人工林、担い手のいない里山、価値がつかないまま切り捨てられる木―「子ども	TAKIBI BASE (ラボエリア)

	が遊べる豊かな森」の背景には、それを支える経済と人の営みがあります。 私は森林ディレクターとして、木を伐り、家具や経木にし、森のビジョンを描く仕事をしてきました。それは「自然と暮らしの関係を編み直す」仕事です。 森を資源ではなく"自然資本"として捉え直したとき、林業も、保育も、地域づくりも、同じ一枚の絵の中に位置づいていくものだと思います。 このラボでは、森を「活用する側」の視点から、みなさんの現場を眺め直してみたいと思います。子どもたちが遊ぶその森は、誰の森で、どんな未来に向かっているのか。保育の専門家であるみなさんと、森の専門家である私とが交わることで、どちらか一方では見えない景色が立ち上がるはずです。 ●講師からのメッセージ： 私は、みなさんが日々向き合っている森をさまざまな視点で見えています。木を伐る、森で生計を立てる、自然を自然のままにする、100年先の森を設計するという視点です。 「森を守る」と「森を使う」は対立しません。むしろそれらをデザインしていくことが大切です。その実感を、現場の言葉でお話します。みなさんの見ている森と、私の見ている森を重ねたとき、何が見えるか。それを一緒に確かめる時間にしたいです。 ●プロフィール： 1988年三重県生まれ。森林ディレクター、株式会社やまとわ取締役。森林科学を専攻後、編集・デザイン経験を経て2016年に同社を創業。「森と人の関係性を再編集する」を掲げ、地域の木を用いた家具や経木づくり、森林ビジョン策定など、林業から地域づくりまでを横断的に手がける。著書に『自然資本とデザイン』、編著に『山の仕事ガイドブック』。持続可能な資源循環と、これからの豊かな暮らしを探索し続けている。	
--	--	--

〈ラボ4 芽吹き〉10月12日(月)9:00～10:30【選択任意】

番号	タイトル・講師紹介・持ち物など	会場
4-1	【森とつながる子どものナイフワーク(子どもの可能性を否定しない)】 講師: 高森 茂範(たかもり しげのり)さん (NPO法人大自然のひろば理事長 / グリーンウッドワーク講師 / CONEリスクマネジメント講師) ● ラボの形式: ワークショップ ● 参加可能人数: 15人 ● 子ども同伴: ○ ● 持ち物: エプロン(あれば便利です)、服装は長袖、長ズボン ●講師からのメッセージ: グリーンウッドワークは身近な樹木を使った木工です。手はつまむ、さわる、にぎる、感じる、など色々な感覚や機能をあわせ持つ、人間本来の最も優れた『道具』です。しかし、今この時代を生きる私たちの手は、本来の豊かな力を発揮できていません。だからこそ私たちは、子どもたちと手道具(刃物)を使って『人の手を取りもどす』体験をしたいと考えています。そのために、まずは子どもと関わる皆さんに、手を取りもどす体験をしていただきたいと思います。 ●プロフィール: 世界各地で自然体験活動を指導しながら、安全な活動やリスクマネジメントに配慮した体験活動を行ってきました。ボーイスカウト活動ではトレーナーとして指導者の育成、ジャンボリー(3万～4万人)の大規模キャンプの運営。県レベルの理事として団体を運営。赤十字社のインストラクターとして「救急法」「幼児安全法」などを37年間指導。1995年からは阪神淡路大震災の救護活動をはじめとして、2019年の千曲川氾濫まで災害ボランティア活動など多くの災害現場で活動してきました。岐阜県の「森林文化アカデミー」で第6期グリーンウッドワーク指導者養成講座を修了。子どもから大人まで、明るく楽しく自由なグリーンウッドワーク講座を企画・運営・開催しています。	スカイフィールド (芝エリア③)
4-2	【世界平和に、教育ができること】 講師: 蓑手 章吾(みのて しょうご)さん (ヒロック初等中等部 運営ディレクター)× 白馬南小学校 ● ラボの形式: 座談会 ● 参加可能人数: 20人 ● 子ども同伴: ○ ● 持ち物: 特になし ●講師からのメッセージ: 森のようちえんとオルタナティブ教育の共通点を通して、教育が世界平和に繋がることを、対話を通して深めます。 子どもの育つ環境と、世界平和と、民主主義と。教育ができる具体的な在り方について、皆さんと大いに描きたいです。 ●プロフィール: 公教育での実践を経て、子ども一人ひとりの主体性や探究心を重視したオルタナティブスクール	ガレージ ロッジ No.1

	「ヒロック初等中等部」を2022年に創設。子どもが自ら学び育つ環境づくりを探究しつづけ、独自の対話と探究を軸にした学びの場を作り上げている。 8月19日に、学陽書房より最新作『苦手な子も「できた！」が増える！ 単元またぎ自由進度学習』を出版予定。	
4-3	【世界の麦わら細工をたのしむ】 講師：上原 かなえ(うへはら かなえ)さん(クラフト作家) ● ラボの形式：ワークショップ ● 参加可能人数：20人 ● 子ども同伴：○ ● 持ち物：材料費1,500円(現金のみ、当日支払い)、作品を持ち帰る箱(靴箱くらいの大きさ) ●概要： 世界各地には、その土地で育つ植物を暮らしに生かしてきた知恵があります。 麦わら細工も、その一つです。 長野県御代田町でライ麦を育て、その恵みを使った麦わら細工を伝えている上原さん。 畑から作品へ。自然の循環を大切にしながら、「素材の声を聞く」「手にまさる道具なし」という想いで活動しています。 一本の麦わらに触れ、手を動かす時間は、自然と向き合い、自分自身と向き合う時間でもあります。世界平和とは、遠い国の出来事だけではなく、身近な自然を大切に、人と人が穏やかにつながる暮らしの積み重ねなのかもしれません。長野の風土が育んだライ麦に触れながら、世界へと続くものづくりの文化と一緒に楽しみましょう。 ●講師からのメッセージ： 素材の声を聞きながら手を動かす麦わら細工の楽しさを、皆さんと分かち合えたらと思っています。道具に頼るだけでなく、「手にまさる道具なし」という感覚を通して、つくることのよろこびや発見を味わえる場にしたいです。 ●プロフィール： クラフト作家・講師。デンマークの手芸学校に留学し、北欧の手仕事の豊かさに触れる。 現在は長野県御代田町を拠点に、ヒンメリをはじめとする麦わら細工を制作・指導。 農家や福祉施設、地域の人々となつながら「MIYOTAライ麦ストロープロジェクト」を主宰し、土地の恵みを生かした循環するものづくりを育んでいる。フィンランドでの個展・ワークショップ開催など、国内外で活動を広げている。	ガレージ ロッジ No.2
4-4	【信州の豊かな自然と共に子どもが安心して育つ場作りを目指して —— 長野県やまほいくの現在、そして未来へ】 講師：山口 美和(やまぐち みわ)さん(上越教育大学大学院教授・日本自然保育学会会長) 新增 由香(しんます ゆか)さん(上田短期大学附属幼稚園 園長) 中澤 真弓(なかざわ まゆみ)さん(一般社団法人 森のようちえん びっぴ 代表) 谷口 和泉(たにぐち いずみ)さん(NPO法人 野外保育 森の子 園長) 藤田 良子(ふじた りょうこ)さん(長野県自然保育普及推進員) ● ラボの形式：パネルディスカッション ● 参加可能人数：30人 ● 子ども同伴：△(講座形式のため、お子さんを対象とはしておりません。やむを得ない場	ガレージ ロッジ No.8

	合のみとさせていただきます、原則大人対象といたします。 ● 持ち物: 特になし ●講師からのメッセージ: 長野県は県土の78%が森林であり、全国に誇る豊かな自然環境を有しています。さらに、長野県は南北に長く、標高差もあることから、地域ごとに多様な文化が育まれています。 県では、この豊かな自然環境や地域資源を積極的に取り入れた保育の普及を図ることで、信州で育つ全ての子どもが心身ともに健やかに成長できる環境を整備し、「子育て先進県ながの」を実現するために、2015年「信州型自然保育認定制度(信州やまほいく認定制度)」を創設しました。 創設から10年余りが過ぎ、現在316園が認定されており、県内各地で地域の特徴を活かした様々な自然保育が実践され、子どもが安心して育つ、「信州らしさ・その土地らしさ」が感じられる場がたくさん生まれています。そこにはどんな子どもの育ちがあるのでしょうか、そして、信州で生まれ育った子どもたちは、地域で育てられた経験や思い出を軸に、どのように生きていくのでしょうか。実際の子どもの育ちに関わるエピソードから、それを深く辿っていきたいと思います。	
4-5	【議員は自然保育推進のために何ができるか ～長野県自然保育推進議員連盟の取組～】 講師: 寺沢 功希(てらさわ こうき)さん (長野県議会議員 安曇野市区 / 長野県自然保育推進議員連盟 代表) 増田 望三郎(ますだ ぼうざぶろう)さん (安曇野市議会議員 / 長野県自然保育推進議員連盟 事務局長) ● ラボの形式: ワークショップ ● 参加可能人数: 30人 ● 子ども同伴: ○ ● 持ち物: 特になし ●講師からのメッセージ: 信州やまほいく(信州型自然保育)認定制度の創設を受けて、自然保育の推進や認可外保育施設の幼児教育・保育の無償化への政策的取り組みをしてきました。自然保育推進のためにぜひ我われ議員を使ってください。 ●プロフィール: 党派や自治体の枠組みを越え、県内(県・市町村)の議員有志が「子どもを真ん中にして自然保育を推進する」という目的のもと2019年に発足した超党派の議員連盟です。	ガレージ ロッジ No.4
4-6	【冒険教育 × シュタイナー教育 ～森のようちえんの日々の実践の先に世界の平和がある～】 講師: 矢島 はなこ(やじま はなこ)さん (公益財団法人日本アウトワード・バウンド協会 非常勤インストラクター / 「ふじの 森のようちえん てって」代表) ● ラボの形式: 講演 ● 参加可能人数: 20人 ● 子ども同伴: △(まだ歩かない赤ちゃんのみ。泣いてしまった時だけ、外の空気を吸いに行っていたら○) ● 持ち物: 特になし ●講師からのメッセージ:	ガレージ ロッジ No.3

	森のようちえんの実践には、実は「冒険教育」や「シュタイナー教育」と響き合うエッセンスが数多く詰まっています。子どもたちは、森で遊び、挑戦し、失敗し、仲間と支え合いながら、自ら感じ、考え、生きる力を育んでいます。こうした実践は、クルト・ハーンが提唱した冒険教育と、ルドルフ・シュタイナーが大切にした自然の中で育まれる教育観の双方と深く響き合っています。 この分科会では、冒険教育とシュタイナー教育、それぞれの考え方について体験を交えながら学び、森のようちえんの実践との共通点や新たな可能性を皆さんと一緒に考えます。 二つの教育思想に共通する「子どもの可能性を信じる」という視点を手がかりに、日々の保育をより豊かにするヒントを皆さんと一緒に探ります。 そして、その小さな実践の積み重ねが、子どもたちの未来、やがて世界平和へとつながっていく——そんな希望を共有できる場になれば幸いです。 ●プロフィール: 日本アウトワード・バウンド協会 非常勤インストラクター / 「ふじの 森のようちえん てって」代表 / 育児カウンセラー・ようちえん野外活動アドバイザー・ようちえん運営アドバイザー 自然学校指導員、保育士、小学校教員、シュタイナー教育教員を経て、我が子の育ちを願い「ふじの 森のようちえん てって」を設立。現在はAdventure Tetteとして、西表島サバイバルキャンプをはじめ、自然の中での冒険教育プログラムを企画・運営。 アウトワード・バウンドの冒険教育指導者育成プログラムを修了。 冒険教育とシュタイナー教育を融合した実践。 目まぐるしく変化する時代だからこそ、子どもたちに今、本当に必要なものは何かを問い続けている。自らも挑戦者として自然の中で学び、冒険し、失敗と成長を重ねながら、一人ひとりが自分らしく生きる力を育むことを願い、子どもたちとともに歩み続けている。	
4-7	【羊毛でコサージュを作ろう～はじめての水フェルト～】 講師: 田中 あずみ(たなか あずみ)さん(羊毛作家) ● ラボの形式: ワークショップ ● 参加可能人数: 10人 ● 子ども同伴: ○ ● 持ち物: 材料費600円(現金のみ、当日支払い)、作品を持ち帰る袋 ●概要: 長野県北部は、羊とともに歩んできた地域です。田中あずみさんご自身が生まれ育った信州小谷村で、羊毛を使ったものづくりを続けています。 命を育み、その恵みをいただき、形にしていく。その一つひとつの工程には、自然への感謝と暮らしの知恵が息づいています。 今回のワークショップでは、参加者みんなで手を動かします。完成した作品だけではなく、一緒に笑い、考え、つくる時間そのものが、心をつないでくれます。 世界平和とは、お互いを認め合い、違いを楽しみながら共に創ることなのかもしれません。信州の羊たちが届けてくれたあたたかな羊毛に触れながら、心もあたたまるひとときを過ごしませんか。 ●講師からのメッセージ: 形になってゆく過程や創る喜びを共有できたと思います。 ●プロフィール: 身近な自然をモチーフに羊毛や身の回りのものを素材に暮らしの中の物を手作りしています。羊	ガレージ ロッジ No.5

	毛屋に数年勤務したことからひつじに会いました。羊毛の温かさや面白さ魅力を届けたく様々な場所でワークショップなどを行っています。	
--	---	--

6.早朝プログラム(フリー分科会)

早朝プログラム(フリー分科会)とは、本フォーラム参加者による、自主企画(持ち込み企画)です。10/11(2日目)と10/12(3日目)の早朝に開催予定です。

それにあたり、早朝プログラムの公募を事前に行います。

開催希望の方は、期日までにご応募ください。条件は、企画趣旨がフォーラムのテーマに沿っていることです。(テーマ:森のようちえん 世界平和大作戦!! ~仲間と紡ぐ対話と暮らし~)

早朝プログラム日時

(1)10月11日(日)6:00~8:30

(2)10月12日(月)6:00~8:30

- 上記2.5時間のうち、任意の時間で開催できます。
- 実行委員にて協議の上、最終決定された早朝プログラムの内容、時間等の詳細は、後日発表いたします。
- ライジングフィールド軽井沢宿泊者の朝食(お弁当)提供時間は7:00~8:30です。(時間の参考になさってください)
- ライジングフィールド軽井沢以外に宿泊されている方向けの、早朝プログラムに合わせたシャトルバスの運行予定はございません。

【開催希望の方へ】

- 上記の開催できる2.5時間のうち、ご自身のお好きな時間帯・お好きな長さで開催できます。
- 早朝プログラム公募フォーム(Google form)下記イラストのQRコードと同リンクです。 <https://forms.gle/nY9Z4LGEK6YfQdZA>
- 開催できる数に限りがあるため、企画をお断りする場合がございますので、あらかじめご了承ください。

【参加希望の方へ】

- ご希望の早朝プログラム開催前日の22:00までに専用スプレッドシートにお名前をご記入ください。
- スプレッドシートへのご記入が難しい方は、各開催日の前日、21時までにフォーラム会場受付本部(スカイフィールド内の建物「スカイアーク」)へお越しください。
- 基本的に先着順のため、定員に達した場合、ご希望の早朝プログラムに参加できない場合がございます。予めご了承ください。
- 申込開始日は、後日発表いたします(8/15現在)
- 申込リンク
<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1-7hr8kAmfadk5c9lnwJhwsL36A7oyJ8XVRstOiVi0G4/edit?usp=sharing>

【注意事項】

- Googleアカウント(Gmail)でログインする必要があるため、Googleアカウントをお持ちでない方は、事務局までお問い合わせください。
- お問い合わせは、以下のmailまでご連絡ください。
 - 件名:「早朝プログラムについて」
 - Mail: event.east.nagano@gmail.com

開催希望の方

STEP
01

フォーラム参加チケットを購入
Peatixにて購入をお願いいたします。



STEP
02

早朝プログラムに応募

専用のGoogleフォームから申し込みをお願いいたします。



STEP
03

事務局より開催可否の通知

9月25日（金）までにメールにて通知いたします。

STEP
04

開催決定

開催日時や場所、報告書の書き方などの詳細をお知らせいたします。



参加希望の方

STEP
01

フォーラム参加チケットを購入
Peatixにて購入をお願いいたします。



STEP
02

ご希望の早朝プログラムを選択

10月に発表される早朝プログラム一覧よりお選びください。

STEP
03

スプレッドシートに入力

プログラム開催前日22:00までに専用のスプレッドシートに記名してください。

STEP
04

当日、現地集合

各プログラムに必要な物を持参し、現地集合してください。欠席連絡は不要です。



7. アウルアドベンチャー

ライジングフィールド軽井沢内にある、人気のスカイアスレチック「OWL ADVENTURE（アウルアドベンチャー）」。期間中、フォーラム参加者限定で営業いたします！ 親子でもお楽しみいただけますのでぜひ遊んでいってください。

(1) アウルアドベンチャーについて

<https://www.rising-field.com/owl-adventure>

アウルアドベンチャー営業日時(2時間制)

- ①10/10(土) 10:30~12:30
- ②10/10(土) 14:15~16:15
- ③10/11(日) 9:15~11:30
- ④10/11(日) 12:00~14:00
- ⑤10/12(月) 13:30~15:30

※ライジングの通常営業とは、オペレーションが異なりますご注意ください。

※開始時間が各回で決まっていますので必ず時間に間に合うようご参加ください。

(2) 料金・定員

- ハイコース ¥3,630(税込) 定員:30名
 - ローコース ¥2,860(税込) 定員:20名
- ※大人、子ども、同一料金です。参加者一人につき上記料金がかかります。

(3) 参加方法

- Googleスプレッドシートで予約管理をいたします。
予約方法は、後日ご案内いたします。
- 空きがあれば、いつでも参加が可能です。
- お申込みされたあとは、当日、「利用同意書」をライジングフィールド軽井沢のセンターハウス前で記入し、センターハウスの受付までお持ちください。

(4) 受付について

- お支払いは、センターハウスで、開始10分前までに受付(支払い)をお済ませください。
- 現金以外にクレジットカードやQR決済も使えます。
- サンドルや長靴は不可のため、必ずスニーカー着用ください(Keenサンダルも不可)

- 身長によっては親が同伴必須となります。詳細はアウルアドベンチャーの注意事項(HP)を必ずご確認ください。

(5)アウルアドベンチャー ご利用案内 詳細(HPより)

アウルアドベンチャーはお客様の自己責任の下、お楽しみいただくアドベンチャー施設です。危険を伴うアクティビティの為、ルールを守らないと重大な事故になる可能性があります。皆様の安全の為にも下記のルールを必ずお守り下さい。

<ご利用条件>

- ◆目安として身長80cm以上の方
 - ◆身長130cm未満の方には、それ以上の身長の方の同伴必須
→特に、ハイコースの場合、自分一人ではハーネス(命綱)の架け替えでワイヤーまで届かない可能性があるため
 - ◆体重120kgまでの方
 - ◆スタッフの説明が理解でき、指示にしたがって頂ける方
 - ◆サンダル着用不可
- ※身長80cmは、あくまで目安です。ハーネス(命を守るための安全器具)を着用でき、安全管理上問題なければ、挑戦することができます。
- ※安全講習は一斉に行います。幼児さんの場合は、保護者・付き添いの方が改めて安全講習の内容をお子さんにご共有ください。
- ※上記を満たす方でも、ハーネス(命を守るための安全器具)がフィットしない方の参加はお断りさせて頂く事があります。

<集合時間>

- ◆開始時間ちょうどからガイダンスを始めます。参加同意書の記入・清算を済ませたうえで、開始時間10分前に、アウルアドベンチャーハウスにお集まりください。
- ※開始時間になりましたら安全講習を開始するので、お時間に遅れないようお越し下さい。
- ※安全講習を受講されない方は、コースに出ることはできませんので、予めご了承下さい。
- ※遅刻される方・キャンセルされる方は必ずご連絡下さい。

<服装>

- ◆動きやすく、多少汚れても問題のない服装にてお越し下さい。
- ◆サンダル・ハイヒール・マフラーを着用してのご参加は、安全管理上ご遠慮下さい。
- ◆お財布や携帯電話等、ポケットの中には何も入れずにして参加して下さい。
- ※参加時、貴重品は備え付けの無料ロッカーをご利用下さい。

<ご利用いただけない方>

◆飲酒・妊娠・心疾患・首・背中に障害のある方・体調不良の方。

◆サンダル、ハイヒール、マフラー、コート着用でのご利用不可。

◆スタッフの指示に従って頂けない方。

※安全確保の為、スタッフの指示に従えない場合、ルールを守らない場合は参加を中止して頂く事があります。

参加料金の返金は致しかねますので予めご了承くださいませ。

<悪天候時の対応について>

◆悪天候(雷・大雨)の場合、アウルアドベンチャーのコースがクローズになることがあります。

※クローズとなった際は、弊社規定に基づき、スタート時間から1時間以内の場合は100%OFFチケットにて対応させていただきます。スタートして1時間から1時間45分以内の場合は50%OFFチケットにて対応させていただきます。

<安全器具の扱い・装着時の注意事項について>

◆装着する器具は、スタッフが装着し、取り外します。基本的に途中で外すことは出来ません。

◆ハーネス着用時～装着中は、お手洗いの利用は出来ません。

装着後のお手洗い利用時はスタッフまでお声がけ下さい。

◆ハーネス・ヘルメット着用中は喫煙・食事が出来ません。(水分補給は可)

<参加意思>

・アウルアドベンチャーは身体的、精神的負荷がかかる可能性がある事を理解して、自己責任で参加して下さい。

8. 物販・出店

フォーラム期間中、ご自身の活動に関する書籍、手作りのクラフト品、雑貨などを通して、全国から集まる仲間とつながり、取り組みをアピールしてみませんか？
皆様からのご応募を心よりお待ちしております。

(1) 出店募集概要

- 開催期間：10月10日（土）～ 10月12日（月・祝）
- 会場：ライジングフィールド軽井沢（メインストリート付近）
- 募集枠数：8～10団体程度（※応募多数の場合は抽選とさせていただきます）
- 出展料：無料

(2) 販売品目

販売できるもの	販売できないもの
・書籍 ・雑貨品 ・手作りクラフト品 など	・生もの（食品類） ・本フォーラムの趣旨に適さないと判断されるもの

(3) 貸出し可能物品

各出店ブースに（1団体につき）、以下を支給いたします。

- 自立型タープ（幅150 cm～200 cm程度）：1台 ※希望者のみ
- テーブル（幅150cm × 奥行60cm程度）：1台

※上記以外の備品（椅子、ディスプレイ用品、釣り銭、看板等）は出展者様ご自身でご用意ください。

(4) 応募条件・注意事項

安全でスムーズなイベント運営のため、以下のルール遵守をお願いいたします。

1. フォーラム参加者であること：
本出展者はフォーラム参加者に限定しております。
2. 販売時間中の「常駐」徹底：
販売時間内は、必ず関係者（出展者本人または代理人）がブースに常駐してください。

さい。防犯・トラブル防止のため、無人での販売(金銭箱のみ設置等)は禁止とさせていただきます。

3. 準備・撤収および管理:

ブースの設営・撤収、および売上金・販売物の管理は各自の責任で行ってください。万が一盗難等があった場合でも、フォーラム実行委員会は責任を負いかねます。

4. 営利を主たる目的としないこと:

本イベントは行政の後援を受けて開催されるため、「営利を主たる目的としないこと」が出店条件となります。以下の内容を必ず遵守してください。

- 目的に沿った出店:単なる一般商業活動としての販売ではなく、本イベントの趣旨に賛同した内容であること。
- 適切な価格設定:暴利を貪るような価格設定を避け、原材料費や出店経費(交通費・人件費等)を賄うための適正な価格で提供すること。
- 利益の使途:出店によって得られた利益(余剰金)は、出店団体の今後の活動費や、実費・経費の補填に充てるものとし、個人の純粋な資産増や利益配分を目的としないこと。
- 禁止事項:一般的な商業セールの実施、高額なブランド品の転売、イベント趣旨に関係のない過度な営利目的の宣伝・勧誘行為。

(5) 応募方法・今後のスケジュール

- 応募方法:以下の専用Googleフォームより、必要事項をご記入の上お申し込みください。
<https://forms.gle/ZLZgWKCzKNoJfjH6>
- 応募締切:8月31日(月) 23:59まで
- 結果ご連絡:9月末までに、抽選結果および詳細をメールにてご連絡いたします。

(6) お問い合わせ先

- 森のようちえん全国交流フォーラム 実行委員会(物販担当)
- 件名に「物販出店について」と記載してください
- メール:event.east.nagano@gmail.com